日本ハンドボールリーグいよいよ開幕

内外注視のうちに第1回日本ハンドボール・リーグがいよいよ開幕する――モントリオール後、国内強化路線の第一弾ともいうべき男女トップエイトによる日本リーグは、すべての準備をとどこおりなく終え9月4日東京、呉の両会場で記念すべきスタートを切る。

男女各28試合の全スケジュールは、7月22日別掲のとおり決まり4節10日間、全国15都市を転戦、リーグチャンピオンの座を争う熱戦譜をつづるわけだが、国内最上位のレベルにある有力選手による激突は新しい試合形式と相まって好内容が期待される。

日本協会は、すでに4年後のモスクワオリンピックを目指して国内体制の総点検をはじめており、その機に、画期的といわれる日本リーグが発足することは、きわめて意義深い。

各チーム、各選手のこのリーグにかける闘志もなみなみならぬものがあると伝えられるが、関係者は、愛好者、スポーツファンの絶大な支援を望んでおり、第1回リーグの成否は、若いスポーツ・ハンドボールの今後の消長を占う意味でも注目が集められよう。

参加する男女各8チームは、本誌ですでに繰り返し報じられているように、今春、日本協会と各加盟団体、各地方協会によって推せんされた候補チームのなかから選び抜かれたもので大きな反響を呼び、男女とも8番目のチーム決定はセレクションマッチを行ったほどであった。

また、男子にクラブチームの大阪イーグルスが参加するのは企業チーム一色という他競技にはみられなかったものであり、このリーグをいっそう特色ずけている。爽秋のスポーツ界に新風を吹きこむ日本ハンドボールリーグの成果を大いに期待したい。

◇

4月末の申しこみ〆切り時点で6日間（24試合分）が確保されただけ、日本協会を心配させた会場はその後、運営委の手廻しで出揃い「好試合を地方で」という日本リーグ開催主旨の一つを満足させることとなった。

日程編成も、本拠地制を下敷きにしながら、ビッグカードを各地に分散している。注目の開幕日は男・大同×三景(東京)、湧永×本田(呉)、女・ビクター×立石（東京）と優勝争いにひびくカードが組まれ、スタートを祝うことになった。

なお、8月21日午後3時30分から東京・ダイヤモンドホテルで日本体協、報道各社、チーム関係者など多数を迎えて「日本リーグ発足パーティ」が開かれた。

徳永陸繁・運営委員長の話　準備はすべて整った。あとは愛好者の皆さんが、いかに会場へ足を運んでくださるかだ。

日本リーグの成功は、チーム、選手の意欲もさることながら、ファンの関心がどれほどかにかかる。第2回リーグまでに、シンボルマークの全国募集など、リーグとファンを結びつける企画を打ち出すつもりだ。

今回は、ともかく見に来て下さい。

日本リーグ全スケジュール

4日(土)	15：30男	大崎電気—三陽商会	(東京体育館)
	17：40男	三景—大同製鋼	(東京体育館)
	16：30男	湧永薬品—本田技研	(呉市体育館)
	18：00男	日新製鋼呉—イーグルス	(呉市体育館)
	16：40女	日本ビクター—立石電機	(東京体育館)
	18：50女	大崎電気—東北ムネカタ	(東京体育館)
5日(日)	13：00男	三景—三陽商会	(東京体育館)
	15：10男	大崎電気—大同製鋼	(東京体育館)
	13：00男	イーグルス—本田技研	(徳山市体育館)
	14：30男	日新製鋼呉—湧永薬品	(徳山市体育館)
	14：10女	東北ムネカタ—立石電機	(東京体育館)
	16：20女	大崎電気—日本ビクター	(東京体育館)
11日(土)	17：40男	湧永薬品—三陽商会	(大阪市中央体育館)
	16：20男	イーグルス—大同製鋼	(大阪市中央体育館)
	16：30男	本田技研—三景	(四日市市体育館)
	14：00男	大崎電気—日新製鋼呉	(四日市市体育館)
	14：00女	立石電機—日立栃木	(大阪市中央体育館)
	15：10女	東京重機—大崎電気	(大阪市中央体育館)
	15：20女	ジャスコ—ブラザー	(四日市市体育館)
12日(日)	14：20男	イーグルス—三陽商会	(大阪市中央体育館)
	15：40男	湧永薬品—大同製鋼	(大阪市中央体育館)
	15：30男	本田技研—大崎電気	(四日市市体育館)
	13：00男	日新製鋼呉—三景	(四日市市体育館)
	13：10女	立石電機—東京重機	(大阪市中央体育館)
	12：00女	日立栃木—大崎電気	(大阪市中央体育館)
	14：20女	ジャスコ—ビクター	(四日市市体育館)
15日(祝)	15：30男	三陽商会—大同製鋼	(栃木県体育館)
	12：00女	東京重機—ジャスコ	(栃木県体育館)
	13：10女	ビクター—ブラザー	(栃木県体育館)
	14：20女	日立栃木—東北ムネカタ	(栃木県体育館)
18日(土)	18：00男	大崎電気—三景	(福島市体育館)
	15：45男	本田技研—日新製鋼呉	(清水市体育館)
	19：20女	ムネカタ—ビクター	(福島市体育館)
	14：30女	ブラザー—日立栃木	(清水市体育館)
19日(日)	15：40男	湧永薬品—イーグルス	(京都府立体育館)
	15：30男	大同製鋼—日新製鋼呉	(愛知県体育館)
	12：20男	本田技研—三陽商会	(愛知県体育館)
	14：30女	立石電機—ジャスコ	(京都府立体育館)
	11：00女	ブラザー—大崎電気	(愛知県体育館)
	14：10女	日立栃木—東京重機	(愛知県体育館)
23日(祝)	15：10男	本田技研—大同製鋼	(熊本市立体育館)
	11：40男	三陽商会—日新製鋼呉	(水海道二高体育館)
	14：00女	立石電機—ブラザー	(熊本市立体育館)
	14：10女	大崎電気—ジャスコ	(水海道二高体育館)
	13：00女	東北ムネカタ—東京重機	(水海道二高体育館)
	10：30女	ビクター—日立栃木	(水海道二高体育館)
25日(土)	19：25男	イーグルス—三景	(高岡市民体育館)
	16：30男	湧永薬品—大崎電気	(高岡市民体育館)
	18：10女	東京重機—ビクター	(高岡市民体育館)
	15：15女	日立栃木—ジャスコ	(高岡市民体育館)
	14：00女	ブラザー—東北ムネカタ	(高岡市民体育館)
26日(日)	12：20男	大崎電気—イーグルス	(金沢美大体育館)
最終日	14：50男	三景—湧永薬品	(金沢美大体育館)
	10：00女	東北ムネカタ—ジャスコ	(金沢美大体育館)
	11：10女	東京重機—ブラザー	(金沢美大体育館)
	13：40女	大崎電気—立石電気	(金沢美大体育館)

◇日本ハンドボールリーグ展望

編集委員会

大同製鋼、文句なしの戦力

男子

やはり、大同製鋼（愛知）優位とみなければなるまい。

ピンチといわれた今春5月の日本実業団リーグを、いちだんと増したたくましさで乗り切ったことで、改めてその戦力が高く評価されている。

まして、日本リーグ初代チャンピオンの栄光がかかるとあれば、3年連続3冠王の名にかけても燃えないハズはない。

4人のオリンピック選手——藤中、中井、松原、花輪が揃って好調である。

特に藤中の迫力は、モントリオールでは、さしものヨーロッパ勢も手を焼くほどで、今や、彼を日本ハンドボール史上最高の選手と賞する人も少なくない。

世界を沸かせた彼の気迫にみちた攻撃が存分に発揮されれば、それは、日本リーグにとって願ってもない〝看板〟となる。

中井のここ一番の強さ、松原、花輪のスピーディな攻めも磨きがかかっており、柳川弟、野田、大原、中本らとがらませた布陣は申し分ない。

GK柳川兄も精彩を取りもどしFP陣の好ディフェンスと相まって、不安はまったくないといってよい。大同が落城するケースというのは、大同自体のコンディショニング失敗または、主力のオリンピック疲れ、相手チームが100～120%のデキを示した時以外には考えられないのではあるまいか。

自信深めた湧永薬品

仮に大同が乱調だとしても打倒・大同の可能性をもったチームはとなると湧永薬品(広島)、本田技研鈴鹿(三重)、三景（東京）の3者に限られるだろう。

湧永は、新人山本、戸田弟、藤本らの実力が予想以上に高く、穂積松本、津川の進境もあってチーム力は昨年とは比べものにならない日本実業団リーグでは13—14と大同に迫り、自信を深めたと思う。

大同戦が第2週（12日・大阪）に組みこまれているのも興味深い

主要大会で湧永の主力選手は不思議に負傷をおい、このところ〝結びの一番〟をベストで戦っていないからだ。

スタミナに課題をかかえた木野高橋、森、戸田兄らにとっても、中盤に最大のヤマ場が待ち構えているのは好都合ではなかろうか。

細野氏を新監督に据えた本田技研鈴鹿は、佐藤、GK柴田の二本柱のワキを新実、田上、柳、長谷川、喜井、金子らで固め、顔ぶれでは大同、湧永にまったく遜色ないところまで来ている。

課題はただ一つ、いかに自チームの型(かた)を定めるかである。

本田の試合は、いつも相手まかせだ。大同を喰うかと思えば、意外な相手に拙戦する。いい意味のずるさを身につけてもいい。

序盤の湧永、イーグルス、三景とつづく日程がカギを握ることはいうまでもない。

三景。個性豊かな選手を並べ、いかにも東京のチームらしい洗練されたチームプレーを身上とする。一昨年は、その特色がフルに活かされ大活躍をしたのだが、このところ低調なのは、勤務のつごうで練習量が少ないからだ、という。

計算されたパスプレー、トリッキーなコンビネーションプレーもなるほどそれでは切れない。

今大会で、はたして冴えをみせるかどうかは、一つにその点—練習量にかかっている。

佐々木、村田という当代最高の〝人気選手〟を軸にして山村、中馬、川島、内藤、加藤とテクニシャンを揃えたチーム力は、大同・中浜監督がもっとも警戒するところでもある。

まとまってきた日新製鋼

意欲に満ちてスタートラインに並んだチームを、初手からBクラスと呼ぶのは気がひけるが、大崎電気(埼玉)、大阪イーグルス、三陽商会(東京)、日新製鋼呉(広島)は、優勝圏内に加わるには総合力でわずかながら見劣りがする。

大崎は、大熊の若々しい攻撃が加わって、いちぢの低迷こそ脱し上り調子にはなっているが、まだまだ気弱な面がのぞく。

全盛期でもこのチームは、けして華やかなカラーとはいえなかっただけに、沈みこんでくるとなんとも線が細い。

福本の、飯田の、東の奮戦だけに終らせてはなるまい。

三陽商会は、近森選手兼監督の動きがカギだ。

西ドイツのブンデス・リガ（全国リーグ）を経験した彼にとって「リーグ」という言葉の響きは独得のものを感じさせるようだ。

それが、近森の〝選手の部分〟を刺激し、奮起させる。

問題は、その激情を〝監督の部分〟が、どうコントロールするかだろう。

田中、小川、稲木、石原、GK田村と好素材を揃えダークホースになり得る力をもつだけに注目したい。

日本実業団リーグを見た人たちの間で、もっとも成長株とみなされたのが日新製鋼呉(広島)である

脇若の好リードで下茂、吹上らが活き、そこへシュアな大庭が加わって、まとめあがった。徳田の進境も目ざましい。ディフェンスにあと一押しの鋭さが加われば、攻撃力は堅実だけに、一暴れの望みは充分かけられよう。

意欲燃やす大阪イーグルス

改めて大阪イーグルスの登場に敬意を表したい。

企業チーム一色に塗りつぶされようとする中で、井上監督の「勝ってこそ参加の意義」という闘志が、どこまで〝威力〟となって現われるだろうか。

オリンピック選手・GK本田を切り札に池本、足羽、福井稔、早川、高橋、河原崎、安達らの陽やけした表情に、なみなみならぬ意欲をうかがうことができる。

個々のもつ読みの深さ、展開力は超一流であり、力と技の使い分けも巧みである。

一つのペースに誘いこんだ時の強さは、このチームの存在が、単にリーグの彩りではなく、大きなものであることを、ファンは知るのではなかろうか。

余裕とりもどした立石電機有力

女子

実力伯仲、波乱ぶくみ3強対決——いろいろみかたがあるようで、前景気をあおるには絶好だが、案外、覇権はすんなりとおさまる所へおさまりそうな〝予感〟がする。

立石電機（熊本）の余裕を買いたいのである。

日本実業団リーグで、チーム創設3年目にして全国タイトルを初めて飾り、主力に落ち着きがでた島田も、蔵田も、山下も「これで肩の荷がおりた。立石の初優勝オリンピックへの出場——この二つの重圧は想像以上だった」という。井監督にしても同じだろう。

余裕を取り戻したうえに池渕、篠田が安定しているし、新人・実松もなかなかだ。もちろん紀野、GK和田も健在。

のびのびと戦った時の強さ、立石は、周囲が待ち望んだ〝優勝の軌道〟に乗っている。

追うビクター、ジャスコ

追うのはやはり日本ビクター（茨城）、ジャスコ（三重）。

ビクターは、日本実業団では立石に6−7。しかも、試合時間を記録席が誤るというアクシデントでリズムを失い敗れただけに、雪じょくの意気さかんだ。

小島の進境で、加藤、穂積とともに新しい柱が育ちつつある。

蓮見、斉藤、それにベテラン池田、額賀とソツのない布陣。GKは渡辺、鈴木と他チームがうらやむ二枚看板である。

いきなり立石との対決、運営委も味(あじ)な編成をしたものだ。

持ち駒不足を嘆きながらジャスコも田村紡の伝統をしっかり受けつぎ、強い。

松下、河田のオリンピックコンビは破壊力がでてきたし、林、金田、鈴木は、昨年より鋭さを加えている。GK久保の自信も心強い材料。

立石戦における松下（世界選手権個人得点3位）と蔵田（オリンピック個人得点1位）の〝対決〟は、呼びものの一つになろう。

3強の一角を切り崩すとすればブラザー工業(愛知)、東京重機（東京)、日立栃木（栃木）か。

いずれも波に乗せたら一気に最上位に突っ走る力もある。

なかでもブラザーが、緒戦のジャスコ戦をとるようだと、面白くなってくるし、リーグ全体の活気につながる。

重機は、実業団リーグでは最下位に落ちこんでしまったが新人がようやくなじみ、復調を期待できる。切り札・古佐原の果敢なプレーは、相変らず各会場をわかすことだろう。

日立はチーム全体にハリが戻り実業団4位の実績も好材料。一暴れが待たれる。新人・島田の攻撃力にも注目したいものだ。

大崎電気(埼玉)、東北ムネカタ(福島)は、最近の低迷をリーグ参加でふっ切ろうとしているだけに意欲充分という。

女子に限らず、こうした長期の転戦システムは、B級チームの戦いぶりが、ペナントレースそのものの成果に反映してくるだけに、全チームが「優勝」を目指してとび出してきて欲しい。

ジャスコ、大和銀行破りリーグ入り

日本リーグ女子第8チーム決定戦・ジャスコ(三重)×大和銀行（大阪）の試合は、8月15日大阪市中央体育館で行われ、ジャスコが24−6（前半13−2）で勝ち、女子の全チームが出揃った。

日本リーグに期待する

会長　田村正衛

男女出場という宿願は果たしたものの、モントリオールオリンピックにおける日本代表の成績はまたしても「欧州の壁」の高さ厚さを思い知らせて終った。

卒直のところ、この言葉、もう数年聞きなじみまたかの印象があるのも事実である。

いかにして、この一線一劃を突破するか——これは現体制の〝最後の課題〟であると考える。

この機に、日本リーグの発足が企画され、開幕にこぎつけたのは誠に当を得たものといえる。

従来、国内の有力チームは実連なり学連なり教職員連なりのグループ内で覇を唱えることを第一の目標にしていたが、高所に立てばこれは厳しさの欠如につながっていたと思う。

日本リーグの誕生は、そうした狭い囲いをとびこえ、やがてリーグの第一線選手によってナショナルが編成されるなら、この上ない強力な心身を持ったチームが出現しよう。

リーグ所属各チームが思い切った練習日程を組み、機あれば積極的に海外へ単独遠征されて腕をみがき、日本リーグのレベルアップに寄与されることがメダルを目指す日本の宿願成就に最大、無二の道であろう。

日本リーグこそ国内強化路線の新しい第一弾であり、そこに私のすべての期待がかかるのである。

——「ハンドボール」——

51年9月号（第145号）目次

日本リーグ開幕……(1)
日本リーグ展望……(2)
リーグへの期待…田村正衛…(3)
日本リーグ選手名簿……(5)
モントリオール五輪特集
健斗の女子5位……(6)
男子の9位に食いこむ……(10)
予選リーグA組……(14)
予選リーグB組……(17)
男子順位決定戦……(19)
男子決勝……(21)
女子3大陸予選……(9)
全日本高校選手権……(22)
ブロック高校選手権……(29)
夏の3大会速報……(31)
西日本学生……(33)
西副会長追悼特集……(34)
各地中学生大会……(38)
各地の記録……(39)
編集後記……(40)

【表紙写真】モントリオールオリンピック、男子第1戦日本×ソ連（7月18日・クロードロビアールセンター）撮影・山田真市

日本リーグ選手名簿

○内数字は背番号

男子

◇大同製鋼(愛知)▽部長 藤井浩一▽監督 中浜大輔▽マネ 戸沢恵子▽ＧＫ①柳川清、⑫倉谷栄治▽ＦＰ②野田清(兼コーチ)、④藤中憲二(兼コーチ)、④柳川実、⑤中井武三(主将)、⑥松原光三、⑦花輪博、⑧北村光次、⑨大原真造⑩中本満明、⑪清崎孝、⑬浦田勝之、⑭原田進(兼マネ)、⑮溝部雅行

◇湧永薬品(広島)▽部長 村中明郎▽監督 市原則之▽ＧＫ①今井敏之、⑫福井秀人▽ＦＰ②津川昭(主将)、③木野実、④穂積豊彦⑤森嗣雄、⑥高橋益夫、⑦戸田栄一、⑧藤本康生、⑨松本義樹、⑩山本伸二、⑪戸田政弘、⑬松井正敏(兼マネ)、⑭菅広明、⑮市原則之

◇本田技研鈴鹿(三重)▽部長 北村元勝▽監督 細野秀男▽マネ、中田隆一▽ＧＫ①細野秀男、⑫柴田正章、⑮牧原元則▽ＦＰ ②田上敬三、③佐藤要二(主将)、⑥喜井美雄、⑤新実俊夫(兼コーチ)、⑥柳隆司、⑦金子清二、⑧豊岡維佐夫、⑨高木徹、⑩矢野充彦、⑪川上雄二、⑬松永章、⑭嶋林護

◇大阪イーグルス(大阪)▽部長 村田弘▽監督 井上裕人▽コーチ 奥浜清▽ＧＫ⑫本田洋、①広川竜男▽ＦＰ②高橋精一、③池本進、④足羽博行、⑤安達修三、⑥橋本義人、⑦河原崎勇(兼マネ)⑧早川清孝、⑨福井稔(主将)、⑩樫塚正一、⑪福井孝明、⑬青木義男、⑭北岡大覚、⑮北居寿実

◇三景(東京)▽部長 田村駿太郎▽監督 江名英彦▽コーチ 喜田建男▽マネ 塩田正弘▽ＧＫ①佐藤寿仁、⑫小林敏男▽ＦＰ②佐々木健一(主将)、③内藤正美、④加藤正博、⑤山村佳生、⑥川島一雄、⑦飯島佳治、⑧武内健司、⑨村田幸男、⑩中馬成一、⑬高梨豊⑯竹村久晴

◇大崎電気(埼玉)▽部長 辻本正義▽監督 東一敏▽コーチ 荒井正人▽ＦＫ①福本弘、⑫原田昭昌▽ＦＰ②飯田信行(兼コーチ)、③東一敏、④佐藤章治(主将)、⑤井手信一、⑥橋本隆三、⑦小松原保彦(兼マネ)、⑧前渕正義、⑨坂口健二、⑩大熊昌己、⑪斉藤幸司⑬新田明、⑭椿原美春、⑮佐伯宏治

◇三陽商会(東京)▽部長 高月英五▽監督 近森克彦▽マネ 屋代公子▽ＧＫ①吉近充洋、⑫田村行光▽ＦＰ②近森克彦、③田中道孝(主将)、④小川和彦、⑤竹村智喜⑥稲木孝文、⑦緒方龍一、⑧石原政周、⑨梅屋正直、⑩鵜沢潔

◇日新製鋼呉(広島)▽部長 山本兼茂▽監督 川岡成徳▽コーチ 沖谷一行▽マネ 中野誠二▽ＧＫ①三田祥生、⑫佐野勝典▽ＦＰ③松木達夫、④村川悟、⑤吹上明、⑥下茂文秋、⑦脇若正二(主将)、⑧吉田義憲、⑨越智徹雄、⑩湯中勝、⑪大庭泰、⑬関本吉志、⑮徳田義雄

女子

◇日本ビクター(茨城)▽部長 富田悟▽監督 池田鉄哉▽ＧＫ①渡辺久子、⑫鈴木はる子、⑭塙てる子、⑮斉藤ますえ▽ＦＰ②蓮見彰子(主将)、③額賀美恵子、④加藤美起子、⑤穂積美保子、⑥斉藤ゆき子、⑦小島和子、⑧染谷保子、⑨藤原久美子、⑩永地政子、⑪池田二三恵(兼コーチ)、⑬羽鳥美代子(兼マネ)

◇ブラザー工業(愛知)▽部長 早川一雄▽監督 白神邦雄▽ＧＫ①山本福代、⑫浅谷良子▽ＦＰ②岩井絹子、③山中さゆり、④楠石かずみ、⑤小森久里子(主将)、⑥木下順子、⑦宮平恵子、⑧国府田ふぢ江、⑨佐々木万喜子、⑩宮本育代、⑪中川しげみ、⑬屋比久直子、⑭比嘉利枝、⑮日高さかえ(兼マネ)

◇山鹿立石電機(熊本)▽部長 浅野洸▽監督 井薫▽ＧＫ①和田祥子、⑫丸山加代子▽ＦＰ②篠田享子、③山下恵美子(主将)、④平下涼子、⑤紀野奈々美、⑥島田夏枝、⑦蔵田照美、⑧池渕澄江、⑨林千恵、⑩実松栄子、⑪田島夏代⑭橋ノロフサ子

◇東京重機工業(東京)▽部長 山岡建夫▽監督 近藤金博▽マネ 寺田美津子▽ＧＫ①佐久間接▽ＦＰ②古佐原ひろ子(兼コーチ)、③折口律子(主将)、④村上佐智子、⑤町田孝恵、⑥横山祐美子、⑦鈴木久美子⑧古谷裕子、⑨関美栄子、⑩寄田美登里、⑪細谷ミネ子、⑬宮田通江、⑭宮下直子、⑮小林とき江

◇大崎電気(埼玉)▽部長 辻本正義▽監督 竹野奉昭▽コーチ 谷口俊郎▽マネ 小松原保彦▽ＧＫ①西村富美子(主将)、⑫中島峰子⑯藤村美和子▽ＦＰ②中村三千代③席定洋子、⑤内野貴代美、⑥大場裕子、⑦深堀安子、⑧佐々木美知子、⑨西典子、⑩工藤淑子、⑪吉田留美子、⑬陽田伊都子

◇東北ムネカタ(福島)▽監督 田口侑義▽ＧＫ①熱海敏子、⑫海村厚子▽ＦＰ②遠藤昌子(主将)、③有賀もと子、④鈴木郁子、⑤清水みよ子、⑥本郷アキ子、⑦近内久枝、⑧鈴木栄子、⑨蒿谷和江(兼マネ)、⑩郷百合子

◇日立栃木(栃木)部長 桑名照雄▽監督 伊藤宏幸▽ＧＫ①桑谷信子、⑫高橋アヤメ▽ＦＰ②鈴井あけみ(主将)、③晴山節子、④向井裕子、⑤大岩幸代、⑥桜庭郁子⑦田村京子、⑧荒木利子、⑨箕輪美智子、⑩山井マチ子、⑪吉田良子、⑬小根沢まり子、⑭藤田恭子⑮島田さゆり

◇ジャスコ(三重)▽部長 伊藤幸昌▽監督 鈴木義男▽ＧＫ①久保徳子(主将)、⑫山本一枝▽ＦＰ②平田裕子、③松下仁美、④林節子、⑤金田孝子、⑥鈴木洋子、⑦河田栄子、⑧笠富子、⑨若田貴美子、⑩金田伴子(兼マネ)

◇日本リーグ運営委員会主要役員

▽委員長 徳永陸繁▽副委員長 嶋田新太郎(総務担当)、山田稔(財政担当)、安藤純光(技術担当)▽総務委員会責任者 桑名照雄▽会計 泉正明

女子5位（入賞）、男子も9位に
～モントリオール・オリンピック～
ソ連、男女とも金メダルの快挙遂ぐ

モントリオール・オリンピック（7月18～28日）はソ連が男女優勝という快挙をとげて熱狂裡にその幕を閉じた。

男子12、女子6カ国が参加しての大会は、モントリオール、ケベック、シャーブルックの3都市にハンドボールのもつスピードとスリルを紹介しながらエキサイトしたドラマをくりひろげた。

男子は、波乱にとんだ展開の末、決勝はソ連×ルーマニアという現代最高の顔合わせとなり、ソ連が世界チャンピオンのルーマニアを押し切って金メダルに輝やいた。

史上初参加の女子は、予想どおり東欧勢の激突となり、ソ連がたくましい攻守で全勝、女王の座についた。

日本勢は、男子がユーゴ、西ドイツ、デンマークと互角の勝負を挑んで注目を集め、結局9位に終ったものの、2年後の世界選手権、4年後のモスクワ・オリンピックで上位進出の期待を高めさせるみごとな健闘を示した。

女子は、「3大陸代表決定戦」快勝の余勢をかって登場、身上のクイックプレーで健闘したが、ルーマニア戦を落としたのが響き、5位にとどまった。

しかし、日本のみせた活躍は、内外賞讃の的となり、初参加での入賞は、永く栄光の記録として残されることになろう。なお、蔵田照美選手（立石電機）が個人最多得点をマークする偉業を成しとげた。

本誌では今月号を第1回に、モントリオール大会の全ぼうを数回にわたって特集する。

惜しかったルーマニア戦

女　子（決勝リーグ）

日本の第1戦・ハンガリーとの試合は、7月20日午後5時30分からモントリオールのクロード・ロビヤールセンターで行われた。審判＝フォルク、ロスマニス（ともに西ドイツ）、観衆＝二千九百

ハンガリー 25（15―7 / 10―11）18 日本

○……記念すべき女子の第1戦は1分40秒蔵田の得点で幕をあけた。

日本の立ちあがりは好調で5分2―2と互角、「これなら…」と思わせたのだが、そのあとバダスの多彩な射ち分けにあって3点を失い、相手ペースとなり、20分4―9とされた。

しかし、日本の攻撃も変化に富み、ハンガリーディフェンスをゆさぶって24分40秒には7―10まで挽回、さらに後半開始直後、島田のゴールで2点差とし、興味を盛りあげた。

得	【日本】		【ハンガリー・身長】		得
0	和　田	GK	ブイドーソ	174cm	0
0	久　保	GK	ベルセニー	170	0
3	古佐原	FP	ステルビンスキー	172	2
3	島　田	FP	シク	171	2
4	蔵　田	FP	レルケス	175	1
6	松　下	FP	バダス	166	7
1	山　下	FP	ネメト	172	4
1	河　田	FP	アンジャール	163	1
0	小　森	FP	M・ナジ	170	4
0	加　藤	FP	トート・ハルサニ	186	1
0	紀　野	FP	I・ナジ	178	1
0	穂　積	FP	ラキ	180	2
18	(6)	PT	(4)		25

このあと、攻撃が中央に固まりすぎ、リーチの長い相手のカットをうけて追加点を思うようにあげることができなかったのは惜しい。

こうなると守りの連けいも乱れてしまいステルビンスキー、ネメトらの速攻にあって点差を拡げられ10分17―11、20分23―17。

日本のお株を奪うようなハンガリーの速攻は鮮やかなものがあった。

日本は、部分的には善戦あるいは相手を上廻る動きをみせるが、そのリズムを持続できない。

連続得点があまりないのもその一つだし、50分間に守りの好不調の波がはげしすぎるのもそのあらわれだ。

いわゆる体力差なのか、それともキャリア不足による欠陥なのだろうか。（杉山茂・NHK特派員）

東ドイツの多彩さに屈す

日本の第2戦・東ドイツとの試合は、22日午後5時29分からケベック市のラバル大学体育館で行われた。審判＝ボルスタット、ラルセン（ともにノルウェー）、観衆＝約一千六百

東ドイツ 24（12―3 / 12―7）10 日本

蔵田、個人最多得点選手に

蔵田照美選手が堂々、個人最多得点選手となった。

オリンピック世界選手権を通じ、日本選手がこのようなみごとな成績をあげたのは男子を含め史上初、賞讃の声が集っている。

個人得点レースは、第4日を終ってリヒター（東ドイツ）が、だんぜんトップだったが、蔵田は最終戦で9点をたたきだし、みごとに1位へ躍り出た。このほか松下が7位、島田が12位。

蔵田選手の話　思ってもみないことでした。

前日まで何点マークしていたかも別に気にしていませんでしたし、最後はカナダに勝つのに夢中で、とても自分のことなど考える余裕はありませんでした。

オリンピックへ出場できたうえに、すばらしい思い出が重って、こんなに嬉しいことはありません。

（女子個人得点ベストテン）①蔵田照美（日本）28②リヒター（東ドイツ）27③マカレス（ソ連）24④ツルチーナ（ソ連）22⑤ステルビンスキー（ハンガリー）18⑧クラウゼ（東ドイツ）16⑦松下仁美（日本）15⑧ティエツ（東ドイツ）・ミクロス（ルーマニア）14⑩パンチュク（ソ連）・ボシ（ルーマニア）13

得	【日本】		【東ドイツ】	身長	得
0	和田	GK	ゾベル	173	0
0	久保	GK	パスキー	170	0
1	島田	FP	バドレク	180	0
3	蔵田	FP	マッツ	176	4
1	河田	FP	クラウゼ	175	4
0	古佐原	FP	ジーフェルト	169	4
0	山下	FP	ティーツ	168	3
0	加藤	FP	ロスト	171	0
1	小森	FP	ウーリク	166	0
0	紀野	FP	リヒター	169	7
0	穂積	FP	ボス	162	2
4	松下	FP	ミカエリス	165	0
10	（5）	PT	（5）		24

○……井監督は東ドイツを「全員の力が平均しており、個々の技倆がそのままチームプレーの多彩さにつながっている」と評していたがその言葉どおり、日本は守りの的をしぼり切れず防戦一方、20分までに10点を与え、しかも6人のFP全員にポイントを許した。

後半も日本は東ドイツの強引とも思える突進にペースを乱され、前半すでに4本のPTを課せられたこともあって当りが弱くなり、傷口が拡がった。

攻撃面でも日本は、相手の動きにリズムをたち切られ散発的に松下、蔵田がゴールを決めるだけ。パスクイックプレーを読みとられ、逆にカットから速攻をくい、なす術なく敗退してしまった。

女子決勝リーグ

	ソ	ド	ハ	ル	日	カ	P	得	失
①ソ連	…	○	○	○	○	○	10	92	40
②東ドイツ	●	…	△	○	○	○	7	89	47
③ハンガリー	●	△	…	○	○	○	7	85	55
④ルーマニア	●	●	●	…	○	○	4	73	83
⑤日本	●	●	●	●	…	○	2	72	115
⑥カナダ	●	●	●	●	●	…	0	35	106

悔やまれる後半初めの乱れ

日本の第3戦・ルーマニアとの試合は、24日午後5時30分からケベック市のラバル大学体育館で行われた。審判＝リイカール、イスシエル（ともにスイス）、観衆＝約一千二百

ルーマニア 21（13−11／8−9）20 日本

得	【日本】		【ルーマニア】	身長	得
0	和田	GK	イオネスク	170	0
0	久保	GK	イオニーカ	178	0
3	古佐原	FP	ソス	170	2
0	山下	FP	アルジール	173	5
3	松下	FP	ラクスタ	176	2
5	島田	FP	ミクロス	180	3
7	蔵田	FP	ホビンク	172	2
2	小森	FP	コジョカール	176	0
0	紀野	FP	ピチゴイ	167	0
0	河田	FP	ボシ	165	4
0	加藤	FP	ラコビッツ	163	0
0	穂積	FP	サス	175	3
20	（3）	PT	（2）		21

○……まったく惜しい試合だった後半8分13−18の苦しい局面から疲れのみえた相手ディフェンスをついて8分30秒小森、10分蔵田で15−18、このあと松下が退場（2分間）を課せられ、その間にボシに2点を許したが、日本はひるまず島田、蔵田、松下らで17分18−20と攻めた。

この粘りにルーマニアは荒いプレーで応戦、19分ミクロスで21−18と3点差をつけたが、流れは明らかに日本のもの。21分松下、21分32秒古佐原と好シュートを連続して決め1点差、同点−逆転を期待させたのだが、ルーマニアも必死の守りをみせ、ついに日本はそのあとポイントを加えることができなかった。

こうした形で終ってみれば、悔やまれる場面も多く、特に前半終了まぎわ8−13から一気に2点差に詰めて、後半に望みをつなぎながら、後半開始直後、ルーマニアの速攻を浴びて8分間に5点差をつけられたのは痛かった。

それにしても、かつての世界チャンピオン、今回も優勝候補群にあるルーマニアに対して、互角あるいはそれ以上のプレーをみせたことは、今後に大きな希望を抱かせるものであり、日本女子に地力が備わりつつあることを示した一戦であった。

“力のソ連”になす術なし

日本の第4戦・ソ連との試合は26日午後5時28分からシャーブルック市のスポーツパレスで行なわれた。審判＝ロスマニス、フォルク（ともに西ドイツ）、観衆＝八百五十七

ソ連 31（15−5／16−4）9 日本

得	【日本】		【ソ連】	身長	得
0	和田	GK	シエルシチュク	175	0
0	久保	GK	ロボーワ	179	0
4	蔵田	FP	ペレジュナヤ	167	4
1	山下	FP	パンチュク	173	6
1	松下	FP	カルローワ	176	1
0	古佐原	FP	ツルチナ	178	4
2	島田	FP	マカレツ	175	5
1	河田	FP	シュビナ	166	7
0	紀野	FP	リトシエンコ	162	1
0	小森	FP	ボブルス	169	1
0	穂積	FP	チェサイチテ	172	2
0	加藤	FP	グルシチェンコ	172	0
9	（4）	PT	（5）		31

○……ルーマニア戦の健闘が疲れとなっていたのか、この日の日本はまったく精彩がなかった。

先取点こそ50秒島田が奪ったがあっさり主導権をもぎとられ15分3−11と大差がついた。

ソ連はGKシエルシチュクの好守がだんぜん光り、日本の好シュートを鮮やかに捌いては、自軍の速攻へ結びつけた。

後半も同じようなペースで、日本は強引に射って出るのだが、相手FPのリーチに巻きこまれる場面も多く一方的、8分8−19から連続10ゴールを奪われるなどよいところがなかった。

日本は、男女とも相手ののしかかってくるような攻勢にまったく弱い。欧州勢は、日本のこの弱点をよく知っているようで多用するから、ますますブが悪い。

この課題を解決しないと、上位進出はいつまでも〝空念仏〟ではないか。（ジム・ロートレイ＝フリーのスポーツライター。在カナダ。本誌特約）

苦しみから貴重な1勝

日本の第5戦（最終戦）・カナダとの試合は28日午前11時56分からモントリオールのクロード・ロビヤールセンターで行われた。審判＝フロップ、マルキ（ともにハンガリー）

日本 15（7−11／8−3）14 カナダ

得	【日本】		【カナダ】	身長	得
0	和田	GK	チュナード	174	0
0	久保	GK	ホーレ	170	0
0	島田	FP	ハートビス	162	1
1	古佐原	FP	レマイアー	163	3
9	蔵田	FP	テトロー	174	2
1	松下	FP	バリオス	175	3
2	山下	FP	パリゾー	170	1
0	河田	FP	ジエニエル	172	0
2	小森	FP	ロバーツ	174	2
0	加藤	FP	シャーレット	163	2
0	紀野	FP	バルタザール	174	0
0	穂積	FP	プルドム	166	0
15	（6）	PT	（5）		14

○……土たん場に追いこまれた日本、この一戦に総てをかけるカナダ。カナダがのびのびと試合を進めたのに対し日本はいかにも固い。

序盤1−4の劣勢を12分30秒やっと追いつき（5−5）、これで落ちついたかにみえたが、攻守ともにまとまらず、特に守りのもろさはひどい。バリオスの巧技などにあって24分4点差をつけられた。”

誰の目にも実力は日本優位なのだが、どうしようもない重苦しさ

が日本をおおっている。

後半5分8—12、10分9—12。どうにか守りは固まった。あとはいつ攻撃の歯車がかみあうかだ。11分古佐原、14分山下で11—12。逆にカナダに焦りがのぞく。16分PTを得て蔵田が決め、ついに同点、4分後蔵田のゴールで初のリードを奪った。

ムードのあがった日本は、さらに攻撃の手をゆるめず20分PT、22分松下と10分すぎから連続7ゴールをマークして15—12、カナダ懸命の反撃を2点におさえて、貴重な1勝を手にした。

憧れのオリンピック出場——そこに待っていたものは苦しみだけだったかもしれない。

だが、今回の5試合、この日の1勝は、日本女子を一廻りも二廻りも大きくするにちがいない。

このほかの試合

ソ　連 21（8—2、13—1）3 カナダ

〈得点者〉[ソ]マカレツ8、ツルチナ4、ベレジュナヤ、ボブルスパンチュク各2、シャバノーバ、リトシエンコ、ザカローワ各1
[カ]ロバーツ3

〇……力の差が歴然。ソ連は前半こそ慎重に試合を進めていたが、後半は自在に攻めまくった。カナダは3点のうち2点がPT、フィールドゴールは前半12分にあげただけだった。

東ドイツ 18（11—3、7—9）12 ルーマニア

〈得点者〉[ド]リヒター6、ボス3、バドレク、クラウゼ、テイーツ、クレッシュマル各2、マッツ1
[ル]ソス4、ミクロス3、ボシ2フルコイ、サス、ピチゴイ各1

〇……ルーマニアは終盤こそポイントをあげたが、これは後半11分16—5と開いて東ドイツが調子をおとしたため。予想以上に両者の実力には差が生じている。

ソ　連 14（6—3、8—5）8 ルーマニア

〈得点者〉[ソ]マカレツ7、リトシェンコ3、ツルチナ2、ベレジュナヤ、パンチュク各1
[ル]ミクロス3、アルジール2、フルコイ、ペトロビッチ、ピチゴイ各1

〇……ソ連は後半5分7—6から相手の動きが鈍ったのに乗じてリトシエンコ、マカレツ、パンチュクらがなだれこむような、闘志あふれる攻撃で一気に勝負をつけたソ連GKシエリミチュクの冷静なプレーが目立った。

ハンガリー 24（11—3、13—0）3 カナダ

〈得点者〉[ル]ステルビンスキー5、アンジャール4、ラキ、バダス各3、I・ナジ、シク、レルケス、M・ナジ各2、トート・ハルサニ1
[カ]バルタザール、ボーモン、ロバーツ各1

〇……ハンガリーはいきなり8点を奪い、あっさり勝負の行方を決めてしまった。

カナダ出場にもかかわらず観客は600人、どうにも盛り上がらない

東ドイツ 29（15—2、14—2）4 カナダ

〈得点者〉[ド]リヒター10、ティーツ7、クラウゼ6、ウーリク3バドレク、ボス、ジーフェルト各1
[カ]レマイアー、テトロー各2

〇……東ドイツは零封でも狙っていたのだろうか、9—0のあとPTで初の失点をマークすると全員が口惜しかった。

それでもカナダは1試合ごとに力をつけている。後半21分の得点など、鮮やかなプレーだ。（杉山）

ソ　連 12（5—5、7—4）9 ハンガリー

〇……優勝争いの大事な一戦はさすがに好内容、エキサイトした。

ハンガリーは前半なかば、2点先行する場面があったが、そのあと同点にされたのを境に、ソ連がだんぜん優位となった。

特に、後半開始後の9分間、ハンガリーディフェンスはまったく当りがとまり、ソ連の鋭い切りこみをうけて9分10—5。ここが勝負のヤマだった。

得	【ソ連】		【ハンガリー】	得
0	シエルシチュク	GK	ブイドソー	0
0	ロボーワ	GK	ベルセニー	0
0	シャバノーワ	FP	トート・ハルサニ	0
2	ベレジュナヤ	FP	ラキ	1
8	ツルチナ	FP	ステルビンスキー	4
0	マカレツ	FP	I・ナジ	0
0	リトシェンコ	FP	シク	0
2	ボブルス	FP	レルケス	3
0	グルシチエンコ	FP	バダス	0
0	ザカローワ	FP	ネメト	0
3	パンチュク	FP	アンジャール	1
0	カルローワ	FP	M・ナジ	0
12	（4）	PT	（3）	9

ルーマニア 17（8—5、9—6）11 カナダ

〈得点者〉[ル]フルコイ4、ボシラコビッチ各3、ラクスタ、サス各2、ペトロビッチ、コジョカール、ホビンク各1
[カ]ロバーツ4、レマイアー2、ハートビス、テトロー、シャーレット、ボーマン、バリオス各1

〇……カナダが健闘した。だが日本と同じで、東欧勢の巧妙なブロックプレー、スクリーンプレーに会うとディフェンスが押しこまれそれにこだわると長身選手のロングにつかれるというパターン、善戦どまりだった（杉山＝カナダテレビの中継から）

東ドイツ 7（2—4、5—3）7 ハンガリー
引き分け

〇……すさまじい試合だった。先手はハンガリーがつねに取りつづけ後半いちどは点差がついた。

得	【東ドイツ】		【ハンガリー】	得
0	ゾベル	GK	ブイドーン	0
0	パスキー	GK	ケジ	0
0	バドレク	FP	トート・ハルサニ	0
0	マッツ	FP	ラキ	0
0	クラウゼ	FP	ステルビンスキー	2
0	ロスト	FP	I・ナジ	0
1	ウーリク	FP	M・ナジ	0
0	ボス	FP	シク	1
0	ジーフェルト	FP	レルケス	0
1	ティーツ	FP	バダス	0
3	リヒター	FP	ネメト	1
2	クレッシュマル	FP	アンジャール	3
7	（5）	PT	（1）	7

残り10分で7—5とハンガリー優勢をキープ、守りの強さから逃げ切りとみえたのだが、東ドイツは18分、23分のゴールで同点、しかも15分以降相手に追加点を許さず引き分けにもちこんだ。

ハンガリー 20（10—6、10—9）15 ルーマニア

〈得点者〉[ハ]ステルビンスキーバダス各5、トート・ハルサニ、シク各3、ラキ、バダス、アンジャール、M・ナジ各1
[ル]ミクロス5、ボシ4、ソス3アルジール2、ペトロビッチ1

〇……ハンガリーはピンチらしいピンチも招かず順当勝ちした。

ルーマニアは、この大会でみる限り、決定的な力に欠け、ずるずると相手のペースに誘いこまれ、反撥できない。ハンガリーも優勝の望みをなくして迫力に欠けた。

ソ連 14 (7−5, 7−6) 11 東ドイツ

得	【東ドイツ】		【ソ連】	得
0	ゾベル	GK	シエルシチュク	0
0	パスキー	GK	ロボーワ	0
4	クラウゼ	FP	ベレジュナヤ	0
4	クレッシュマル	FP	ツルチナ	7
0	バドレク	FP	マカレツ	4
0	マッツ	FP	シュビナ	0
0	ロスト	FP	リトシエンコ	1
1	ウーリク	FP	パンチュク	0
0	ボス	FP	ボブルス	1
0	ジーフェルト	FP	グルシチェンコ	0
1	ティーツ	FP	チェルサイチテ	0
1	リヒター	FP	カルローワ	1
11	(2)	PT	(5)	14

○……4勝のソ連、3勝1分の東ドイツ。東ドイツはこの一戦をとらぬ限り優勝はない。

その気負いが裏目に出たかスタートはソ連が圧倒、10分4−1と先行した。

東ドイツも必死で、前半ともかくも反撃の足場を固めたあと、後半3分同点(7−7)、4分にはクレッシュマルで待望の逆転に成功した。この勢いに呑まれぬところが、ソ連の強さだ。5分同点。再び一進一退となったが、この間東ドイツは2回(6分、9分)PTを落としたのが、結果的に大きく響くことになる。

14分10−10からソ連はボブルス、リトシエンコ、パンチュクがいずれも鮮やかな組織攻撃を実らせて3点連取、13−10。しかも、東ドイツがこのあとのPTをまたしても落としたため、ここで事実上、勝負は決まった。

東ドイツにとっては、あまりにも悔いの残る一戦だろうが、それだけソ連に勝運があったといえ、とりわけGKシエルシチュクの好守はすばらしかった。

男女ともトレーニングゲーム

日本女子チームは、本番前モントリオールで次の二試合をトレーニングゲームとして行った。

▽第1戦(7月14日)

ルーマニア 28 (13−9, 15−8) 17 日本

▽第2戦(7月18日)

東ドイツ 29 (15−5, 14−5) 10 日本

◇

一方日本男子チームも、モントリオールで次の二試合をトレーニングゲームとして行った。

▽第1戦(7月13日)

チェコ 29 (15−14, 14−9) 23 日本

<日本の得点>藤中10、蒲生4、菊池、佐藤、花輪各2、木野、松原、穂積各1

▽第2戦(7月14日)

ルーマニア 35 (17−12, 18−11) 23 日本

<日本の得点>蒲生9、藤中5、佐藤、菊池各3、花輪、佐々木、松原各1、

女子『3大陸代表』決定戦

モントリオール・オリンピック女子の「3大陸代表」決定戦は、本誌前号速報のとおり6月28日から7月3日までアメリカ・ウイスコンシン州ミルウオーキー市のホワイト・フィッシュベイ高校体育館で行われ、日本(アジア大陸代表)が、アメリカ(アメリカ)、チュニジア(アフリカ)を連破、出場権を獲得した。

(後記・井薫=全日本女子監督)

▽第1次リーグ第2戦

日本 20 (11−3, 9−6) 9 チュニジア

○……開始直後、左右両サイドから強烈なゆさぶりを受けて0−2とされたが、日本は2・4ディフェンスで相手の攻撃リズムを乱し、インターセプトから速攻というパターンを展開、主導権を握った。

後半は、アメリカチームの目もあり、選手交替を繰り返し、そのためコンビが崩れて失点を増したものの、攻撃面では初舞台の小森や、河田らの活躍で順調に加点、第一戦を飾った。

▽同第3戦

日本 23 (12−7, 11−10) 17 アメリカ

○……第一戦同よう、日本の立ち上がりは固かったが、5分過ぎから蔵田がカットイン、ジャンプシュートを混じえ4ポイントして口火を切り、古佐原のサイドシュート、島田の速攻などベテランの頑張りで勝利を握った。

アメリカの攻撃力は世界選手権(50年12月)の時より、著しく向上しており、試合前の目標であった10失点を7点も越してしまったのは、大いに反省しなければなるまい。

▽第2次リーグ第2戦

日本 18 (9−7, 9−1) 8 チュニジア

○……日本は若手中心でスタート防御のコンビはもう一息であったが、攻撃面では山下、松下、加藤小森らがよく持ち味を発揮して先行した。

前半終了前と後半はベテランを繰り出し、最終戦を想定したディフェンスラインの変化などを試しながら、チュニジアのペースを狂わし、無難な出来でしめくくった。

▽同第3戦(=最終戦)

日本 19 (11−6, 8−6) 12 アメリカ

○……総てのかかった最終戦。日本は立ち上がりから持てるフォーメーションを次々と連発、松下のスカイプレー成功をきっかけに、今シリーズ最高の好スタートで4−0。

しかし、アメリカも闘志鋭く反撃を示し、かなり荒い展開となった。日本は和田、久保のGK陣が互いにカバーしあってアメリカの攻撃を封じた冷静なプレーが勝因の一つとなり、松下のシャープな攻撃も貢献した。

かつてない重圧をはねのけて宿願のオリンピック行きを決めることができたが、乗りこみの不安の中でIHF理事渡辺和美氏(日本)が本部席に居られたことは、多いに元気づけられ、励みになった。感謝したい。

アメリカ 13−8 チュニジア

アメリカ 22−13 チュニジア

……日本選手団……

・監督	井 薫		
・コーチ	鈴木 義男		
・GK	和田 祥子	(立石電機)	167
	久保 徳子	(ジャスコ)	161
・FP	島田 夏枝	(立石電機)	163
	蔵田 照美	(立石電機)	163
	山下恵美子	(立石電機)	160
	紀野奈々美	(立石電機)	165
	松下 仁美	(ジャスコ)	163
	河田 栄子	(ジャスコ)	167
	加藤美起子	(日本ビクター)	164
	穂積美保子	(日本ビクター)	167
	古佐原ひろ子	(東京重機)	153
	小森久里子	(ブラザー工業)	166

健闘の男子　アメリカ破り初の9位

ベストエイト進出を目標に二度目のオリンピック出場をはたした全日本男子は、優勝候補の居ならぶ予選リーグA組で精いっぱいの健闘を示し、専門家筋から「最も勇敢に戦ったチーム」の讃辞をうけたが、結局、予選リーグでは地元カナダから1勝したにとどまった。9〜10位をかけたアメリカ戦は勝ち、9位についた（注・ミュンヘンオリンピックは11位）

9〜10位決定戦

7月27日午後1時58分からモントリオールのクロード・ロビヤールセンターで日本×アメリカの顔合せで、9〜10位決定戦が行われた。審判＝ロディル、オルセン（ともにデンマーク）、観衆＝約二千。

日　本 27（15—12　12—8）20 アメリカ

○……アメリカは今大会、双生児のディーン兄弟が加るなどメンバーがらりと代っている。

9カ月前のプレオリンピックで日本と顔を合わせた時のメンバーは6人しかいない。

それだけに過去の対戦成績（日本の4戦4勝、94—63）は、あてはまらないハズだった。

特に、B組でみせた強い当りと

得	【日本】		【アメリカ（身長）】	得
0	本田	GK	リブニヤク・175	0
0	柴田	GK	グランツ・183	0
0	木野	FP	アブラハムソン・190	4
2	藤中	FP	ベーカー・196	5
4	中井	FP	Ra・ディーン・188	6
5	花輪	FP	ジョンソン・195	0
5	蒲生	FP	ロジャース・193	1
3	菊池	FP	Rn・ディーン・188	4
5	佐藤	FP	セラペド・186	0
1	佐々木	FP	スパークス・191	0
1	穂積	FP	ディカロゲロ・183	0
1	松原	FP	バーニング・194	0
27	（6）	PT	（4）	20

直線的な攻法は警戒が必要だったが、はたして日本は立ちあがりピッタリと食いつかれ、二度ほど先行される場面もあり、いったん8—5としながら、そのあと二本のPTをとられ、20分8—7と苦しかった。

しかし、アメリカのプレーはフォローがないため、個々の動きの割に、チームとしては単調で、ようやく慣れた日本は、22分花輪のPT成功で落ち着き、中井、蒲生、佐々木とたたみかけて、前半4点差をつけた。

後半も日本のペースで始まり、花輪を軸に、若い蒲生、菊池が当りの止まった相手ディフェンスをよくついて着々とポイント、13分16—9と引きはなした。

アメリカは、15分すぎベーカーの連続ゴールで反撃、11—16とし、さらにPTを得たのだが失敗したのが痛かった。

日本は相手の気落ちをみのがさず、変化のある攻撃で加点、とりわけ花輪、蒲生の活躍が目立った。

これで日本は9位を確保したわけだが、世界選手権、オリンピックを通じ、日本男子がいわゆる一桁のランクを得たのは初めてのこと。日本協会・荒川清美理事長は試合後「健闘を賞していい。欧州の壁突破に一つの足がかりを築いた大会として特筆されよう。」と語った。

望めた2〜3勝

予選リーグA組

日本の第1戦・ソ連との試合はモントリオールオリンピックハンドボール競技の開幕戦として18日午後7時2分からモントリオール

完敗はソ連戦だけ

のクロード・ロビヤールセンターで行われた。審判＝イシェル、リカルト（ともにスイス）、観衆＝約三千。

ソ　連 26（15—11　11—5）16 日　本

得	【日本】		【ソ連】	得
0	本田	GK	イチエンコ・191	0
0	柴田	GK	トミン・178	0
6	藤中	FP	フェジュキン・180	0
0	中井	FP	マキシモフ・186	6
2	木野	FP	アンピロゴフ・203	5
4	佐藤	FP	チエルニショフ・202	7
1	花輪	FP	クシニリュク・202	2
1	菊池	FP	クラフゾフ・174	2
1	穂積	FP	クリモフ・189	1
0	松原	FP	ラグチン・184	2
0	佐々木	FP	キドヤエフ・176	1
1	蒲生	FP	レザノフ・197	0
16	（4）	PT	（2）	26

○……ソ連に2m選手が2人増えた。プレオリンピックの時はチェルニショフ一人だったのである。

その3人がジャンプしてパスを送る。それだけでもうフォーメーション。そんな感じがする。

チェルニショフの定位置は右45度なんと13m地点だ。これでは、日本の秘策・密着マークも利かない。

先取点は、チェルニショフが倒れこみながらのフェイントシュートである。大きいだけではない。巧さも備えている。

だが日本も頑張った。6分藤中がすばらしい速攻（1—3）、10分木野がジャンプショット（2—4）15分佐藤がPT（3—6）。

得点のたびに、日本への応援一色に染められた場内が大歓声。

しかし、ソ連は無表情で攻めるマキシモフが絶妙な配球と自らの切りこみでポイント、23分10—3と差がついた。

後半もソ連のペース、アンピロゴフが高い打点から投げおろす。本田も柴田もくちびるをかむが、手のほどこしようがない。

14分7—19、ここで、衛星中継によるテレビ電波が日本へ送られはじめた。

それを合図にしたかのように日本の動きがよくなった。

15分PT（佐藤）、17分藤中と初めての連続ゴール。

そのあとも互角にゴールをあげる健闘、残り15分間のスコアは日本が9—7とリードである。

だが、あまりにもそれまでの失点が大きすぎた。

竹野監督は「欧州の大型チームに久々で当たると、どうしても初めのうちは勝手がちがい思い切ったプレーができない」と前半の消極さを悔やんだ。

日頃、「体格差はいいわけにならない」という荒川理事長も、さすがに「でかいねェ」と2mトリ

日本（男）過去の順位

1961・第4回世界	×
1964・第5回世界	×
1967・第6回世界	×
1970・第7回世界	10位
1972・ミュンヘン五輪	11位
1974・第8回世界	12位
1976・モントリオール五輪	9位

・×は順位なし
・第1〜第3回世界に日本は不参加

オに舌をまいた。（杉山）

立ち上りの失点ひびく

日本の第2戦・西ドイツとの試合は20日午後8時30分からモントリオールのクロード・ロビヤールセンターで行われた。審判＝ニルソン、オルソン（ともにスウェーデン）

西ドイツ 19（11－5、8－11）16 日本

得	【日本】		【西ドイツ】	得
0	本田	GK	ホフマン・190	0
0	柴田	GK	ラウエル・192	0
0	中井	FP	ハーン・183	3
3	佐藤	FP	クルースパイス・195	2
6	藤中	FP	スペングラー・181	0
0	木野	FP	デッカルム・194	2
1	菊池	FP	アーレット・181	5
2	蒲生	FP	ブラント・193	3
3	松原	FP	ボットヒャー・188	0
1	花輪	FP	クレイブリンク・187	2
0	佐々木	FP	ブッシュ・200	2
0	穂積	FP	ベッカー・188	0
16	(3)	PT	(2)	19

○……日本の追い上げはみごとだった。前半なかば突然の崩れで受けた6点差が重くのしかかり、後半15分も9－15。

このあと日本の猛反撃がはじまった。口火は17分藤中。19分PT（花輪）で11－15。日本の巧妙な攻撃は波にのり、空間攻撃、フェイントプレーなどで完全に西ドイツを上廻った。

しかし、西ドイツは気迫で押しこまれながら、さすが余裕がある日本のペースがわずかに落ちたスキを見逃さず55分アーレット、56分クレイブリンクとミドルをとばし19－13と開いた。

この2失点で日本を完全に沈黙させたかにみえたが、日本はなお粘り、27分PT(佐藤)、28分15秒菊池、29分蒲生で3点差としたのだが、惜しくもタイムアップとなった。

日本に惜しまれるのは立ちあがり1－1の互角を持ち切れず、そのあと伏兵アーレットの巧技などで13分1－7とされた守りの失敗である。また、7回得たPTのうち4回落としたのも痛い。

（J・ロートレイ）

4点のリードも空し

日本の第3戦・デンマークとの試合は、22日午後6時57分からシャーブルック市のスポーツパレスで行われた。審判＝ヘスゼル、ラウユス（ともに東ドイツ）、観衆＝六百

デンマーク 21（8－11、13－6）17 日本

得	【日本】		【デンマーク】	得
0	本田	GK	ヨルゲンセン・186	0
0	柴田	GK	ピクニク・181	0
5	木野	FP	イエンセン・187	0
3	中井	FP	ダル・ニールセン・192	1
2	佐藤	FP	ボック・190	1
1	花輪	FP	フラントゼン・186	2
1	菊池	FP	フリヨーム・186	1
3	藤中	FP	パジ・193	6
1	佐々木	FP	ラルセン・180	7
0	穂積	FP	アンデルセン・189	2
1	蒲生	FP	ムンカゲル・183	0
0	松原	FP	ペーテルセン・179	1
17	(2)	PT	(4)	21

○……日本が「8位以内」を遂げるには絶対に負けられない一戦。

その気迫が実って、後半直後には4点のリードを奪いながら、後半なかばデンマークの地力に名をなさしめた。

日本は前半10分佐々木で2－2としたあとリズムに乗り、木野のサイドシュートなどで加点、27分すぎには中井、藤中、花輪がなだれこんで11－7、優位に立ち、後半1分40秒、藤中のゴールで12－8と主導権をキープした。

しかしデンマークも、日本チームをよく知る老巧フランドセン（スタジオン・コペンハーゲンで49年来日）を投入、左腕のパジと突進力のあるラルセンに球を集め、2本のPTを含む連続5ゴールで7分13－12と逆転した。

日本も8分中井で同点としたものの、前半の動きはなく、そのあと再び4点を積みこまれ13分17－13と開かれてしまった。

なんとか粘ろうとする日本は16分菊池、17分PT(佐藤)で15－17と食い下り、射程圏内に相手を置くことは置いたのだが、パスの乱れや相手の陣形を崩さぬうちのシュートが多く追い切れなかった。

絶対優位から一気に攻め落とされただけに惜しまれるが、やはり欧州勢に比べ、肝心なところでもろさが出る。

前半11－7で終るところを、残り2秒で1点を失って3点差に詰められたあたりが、その一つだ。

逆に、欧州勢はそうしたわずかなスキを見逃さぬ力を全員が身につけている。

守りの弱さつかれる

日本の第4戦・ユーゴとの試合は24日午後8時29分からシャーブルック市のスポーツパレスで行なわれた。審判＝ロディル、オルソン（ともにデンマーク）、観衆＝約一千二百

ユーゴ 26（13－12、13－10）22 日本

○……日本は好スタート、わずか2分間にPTを含め3点、5分4－1と先行した。

得	【日本】		【ユーゴ】	得
0	本田	GK	アルスラナジッチ・189	0
0	柴田	GK	ゾルコ・187	0
0	中井	FP	ラゼノビッチ・194	1
6	藤中	FP	カラリッチ・184	2
2	佐藤	FP	パビセビッチ・192	0
2	菊池	FP	セルダルヂンチ・186	2
2	木野	FP	ホルバト・190	1
6	蒲生	FP	クリポカピッチ・192	2
1	佐々木	FP	チムコ・186	2
0	穂積	FP	ミルヤク・189	12
2	松原	FP	ポポビッチ・182	4
1	花輪	FP	ポクラヤク・186	0
22	(2)	PT	(6)	26

ユーゴは、左腕ミルヤクが鋭い切りこみからジャンプシュートをみせて一人でポイント、13分7－6と初めてリードを奪ったが、日本も好調で一歩も引かず20分10－10のあと、24分菊池がゴール、再びアヘッド。

ユーゴは、かつての守りの固さが見られず、とられてとるという展開が多い。

日本としては、守りに勝機がかかったハズだが、やはり相手の強引さを支えきれず、残り6秒セルダルヂッチに割られて前半を終えた。

後半、ユーゴは同じ戦法。40秒ラゼノビッチが押しこみ、さらに2本のPTをかせいで4分16－12と開いた。

日本の敗戦のパターンはすべてこれである。

欧州勢のスピードを防ぐことは

男子予選リーグ

(A組)	ソ	ド	ユ	デ	日	カ	P	得失差
①ソ連	…	○	●	○	○	○	8	34
②西ドイツ	●	…	○	○	○	○	8	21
③ユーゴ	○	●	…	○	○	○	8	17
④デンマーク	●	●	●	…	○	○	4	
⑤日本	●	●	●	●	…	○	2	
⑥カナダ	●	●	●	●	●	…	0	

(B組)	ル	ポ	ハ	チ	カ	P
①ルーマニア	…	○	○	△	○	7
②ポーランド	●	…	○	○	○	6
③ハンガリー	●	●	…	○	○	4
④チェコ	△	●	●	…	○	3
⑤アメリカ	●	●	●	●	…	0

竹野—東ラインの目指す〃積極的ディフェンス〃でどうにか実りつつあるが、一対一の押しこみと、身体を横にしてのボディチェックブロックを食うと弱い。

その弱点をつくのが、彼らの〃日本戦法〃である。この日までに日本の被PTは18本、そのうち14本を決められた（編集委注・残りの2試合を加えると日本の被PTは28（失点20））

無理なディフェンスというより相手に巧くしてやられた、という印象のケースが多い。

ミュンヘンの王者・ユーゴと互角以上にわたりあいながら、最後はねじふせられてしまったのも、この点につきる感じなのだが……

後半の好機活かし勝つ

—日本選手団—

・監督　竹野　奉昭
・コーチ　東　嘉伸

・GK
本田　洋（大阪イーグルス）179
柴田　正章（本田技研鈴鹿）185

・FP
藤中　憲二（大同製鋼）178
中井　武三（大同製鋼）180
松原　光三（大同製鋼）180
花輪　博（大同製鋼）177
木野　実（湧永薬品）181
穂積　豊彦（湧永薬品）180
佐藤　要二（本田技研鈴鹿）180
佐々木健一（三景）171
菊池　悟（東京12チャンネル）186
蒲生　晴明（中大4年）192

日本の第5戦・カナダとの試合は26日午後7時からケベック市のレバル大学体育館で行われた。審判＝シデア・シルリジアヌ（ともにルーマニア）、観衆＝二千八百四十

日本 25（16—10、9—9）19 カナダ

○……「勝てるのは日本戦だけ」トロファン・カナダ監督は、大会前からいいつづけ、選手ももちろんその気。

すばらしい闘志でスタートしたカナダは10分3—1、15分いちど日本は逆転したが、カナダはすぐに取り返し、1点差ながら後半3分まで先行することになる。

得	【日本】		【カナダ】	得
0	本田	GK	ルフェーブル・183	0
0	柴田	GK	パワー・188	0
3	藤中	FP	シャノン・186	1
3	中井	FP	ランバート・180	1
5	佐藤	FP	フエルダイス・177	5
5	松原	FP	ジョンソン・185	0
2	蒲生	FP	デゾルモウ・188	3
2	花輪	FP	ビーンズ・185	2
0	佐々木	FP	サンマルタン・181	2
0	穂積	FP	デルサン・183	2
0	木野	FP	ダフィン・183	1
5	菊池	FP	ブランクノー・181	1
25	（5）	PT	（2）	18

日本はけして不調ではなかったが、なかなかペースをつかむことができない。

ようやく後半3分中井が巧く相手ディフェンスをかわして得点、このプレーは10—10としたばかりか、相手の守りを精神的に乱す効果があった。

1分後、再び中井が持ちこみ、さらに菊池、松原と攻め立て6分13—10、優位に立った。

カナダも激しく迫るが、日本はこうなると強い。攻め口が多彩となり、1点を失ってもすぐに埋め合わすだけの力をみせる。

これが、どうして欧州勢と対戦した時には出ないのだろう。

カナダは、それでも3点差で離れず反撃の機会を狙ってついてきたが、日本は残り5分、松原のプレーが冴えて加点、待望の1勝。

終盤は完全に力の差をみせつけた試合である。予選を終ってみると、完敗したのはソ連戦だけ。カナダ以外からあと1～2勝は望めたハズで、竹野監督も「デンマーク戦が誤算。西ドイツに勝っていれば、ユーゴ戦は悪くても引き分けられたろう」と残念がる。

悔いの残る大会にみえるが、卒直にいって欧州勢をしのぐ力を持ちながら、それを出し切れなかったとは思わない。むしろ、全力をつくして、欧州との差を大きく縮めた、と評価すべきであろう。

（杉山＝カナダTVの中継から）

◇本誌6～21頁の試合後記のうち特に署名のあるもの以外は、国内各紙、レキップ（仏）、ガゼット（カナダ）、モントリオールスター（カナダ）から本誌編集委がまとめたものです。

モントリオールに拾う・モントリオールに拾う

☆……残りものには福がある？本隊到着の前に、予選地のミルウォーキー市からモントリオール入りした日本女子の人気はたいへんなもの。皆さんも国内各紙の大々的な報道をごらんになったと思うが、この時から各選手のマナーのよさが内外報道関係者に評判となった。

☆……東欧勢の圧倒的なパワーに挑む日本の健闘は、各会場で人気の的。日本ボールになると観衆はいっせいに手拍子、少しでも日本に不利な判定があるとブー、ブー。

日本のある選手は、「国内でもこれほどの応援は受けない」と嬉しそう。

その声援もカナダ戦だけは別は、男子選手が声をからして日本セブンを元気づけた。

シーソーゲームの女子最終戦

☆……ミュンヘン大会でゲリラ事件があったため、今回の警備は、まさしく水ももらさぬ鉄壁ぶり。

選手送迎バスの上空には常にヘリコプターが飛んで目を光らすほど。

こうしたあおりで日本協会・荒川清美理事長はついに選手村へいちども入れず、女子の鈴木義男・日本協会派遣コーチも、練習、試合などでのいっさい〃接触〃を断たれてしまった。

☆……厳しい警戒にもかかわらず24日、日本ユーゴ戦の行われた直後、会場のシャーブルックスポーツパレスに爆弾を仕掛けたという電話があり、試合を終えた日本チームなどは大急ぎで逃避。探さくの結果、何も発見されなかったが、近ごろのオリンピックはなんとも殺ばつとしている。

☆……組織委員会の発行したハンドボールの記念パンフレットは、まるで日本特集号。

昨秋のプレオリンピックでみせた日本のプレーが、よほど地元関係者のお気に召したらしく表紙を飾っているほか、本文中に日本選手の写真4葉が掲載されている。

☆……大会前に開かれた日本領事館主催の歓迎パーティに、男子は練習時間と重なったため女子だけが出席。久しぶりの日本食に旺盛な食欲をみせたが、誰からともなく「男子のために持って帰ろう」と、おにぎりなどを包みはじめた。この仲のむつまじさ、モスクワでも見せつけて欲しい。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会長	清水晴次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳瀬準一	岐阜市西部中島	二和家具工業取締役
理事長	森島清明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理事	隅田泰生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新村 茂	岐阜市西部中島	二和家具工業本店
	泉 文俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安武英巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅野敏夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高橋省吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社 名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

ユーゴ（前回優勝）、最終戦で不覚

A組このほかの試合

西ドイツ 18（7−5、11−9）14 デンマーク

ユーゴ 22（15−12、7−6）18 カナダ

○……地元カナダがミュンヘンの王者と互角にわたりあい観衆を喜ばせた。

展開はユーゴの先行をカナダが追うかたちとなり、4−7の劣勢から、18分9−9の同点とした場面は、館内総立ちとなる興奮ぶりだった。

しかし、ユーゴはさすがに相手にリードまでは許さず、多彩な組織攻撃でポイント、堅実に点差を拡げていった。

ユーゴ 25（13−5、12−12）17 デンマーク

ソ　連 25（12−5、13−4）9 カナダ

西ドイツ 26（14−7、12−4）11 カナダ

ユーゴ 20（11−8、9−10）18 ソ　連

○……60分間があっという間に過ぎた。壮烈な展開だった。

特に後半のせりあいは、まさに"事実上の決勝戦"といわれるにふさわしかった。

ユーゴは、序盤こそソ連の先行を許したが、前半なかばから、多彩な攻めでソ連守備網を切り崩し後半13分には15−11と差をつけた。

しかし、ソ連も2mトリオ（クシニリュク、アンピロゴフ、チエルニショフ）を常時投入して豪快な追いあげをみせ、16分には14−15と予断を許さなくした。

○……ユーゴは、ここでGKを老巧アルスラナヂッチに替え、この策がまんまと当たった。

動きの鈍くなったユーゴ守備陣をついてソ連は絶好機をつかみながら、4度もアルスラナヂッチの沈着な球捌きにはね返されてしまったのである。

このあたりのベンチの選手起用はみごとなものだ。

しかも、残り2分、再び追撃をうけると、惜し気もなくアルスラヂナッチを引っこめ、ゾルコを送りこんでいる。

○……勝負は、スコアこそ18−15とユーゴが3点をリードしていたものの、残り5分にかかった。

最後の力をふりしぼるソ連は26分マキシモフがとびこみ、27分ガシイが相手二人のマークをはねとばして決めた。17−18。

勢いにのったソ連に、さすがのユーゴもひるみ、若手の表情は紅潮しつくしている。

この危機を救ったのは宿将ホルバトの絶妙な配球である。

27分40秒、シュートを射つとみせかけマークをつったあと、なんとかがみこんで、ポストのセルダルジッチへアンダーパスを送った

虚をつかれたソ連守備陣は、ノーマーク同ようにセルダジッチのシュートを受けた。

○……ソ連も粘り28分チエルニショフが投げおろして再び1点差としたが、ユーゴは、ソ連のプレスディフェンスを走り抜けて28分40秒ミルヤクがダメ押し点、相手のラストチャンスを、斗志あふれるブロックではじき返し、さしもの激斗にケリをつけた。（杉山）

得	【ユーゴ】		【ソ連】	得
0	ゾルコ	GK	イチエンコ	0
0	アルスラナヂッチ	GK	トミン	0
3	ラジエノビッチ	FP	マキシモフ	4
0	カラリッチ	FP	クシニリュク	1
2	セルダルヂッチ	FP	イリイン	0
3	ホルバト	FP	クラフゾフ	1
1	ポクラヤク	FP	クリモフ	0
8	クリボカピッチ	FP	アンピロゴフ	1
2	ミルヤク	FP	チエルニショフ	4
1	ポポビッチ	FP	ガシイ	5
0	ボヨビッチ	FP	キドヤエフ	2
0	パビセビッチ	FP	レザノフ	0
20	（2）	PT	（2）	18

ソ　連 18（9−5、9−11）16 西ドイツ

○……全勝の西ドイツ、1敗のソ連。ソ連にはもうアトがない。

ソ連はなるべく早い時間に主導権を奪う策戦だったのだろう。スタートから積極的に攻めこみ、得点を狙った。

西ドイツは、序盤こそ持ちこたえ、18分には5−4とリードさえ奪ったのだが、20分を過ぎるあたりから疲れがのぞきはじめた。

ソ連は待っていました、とばかり当り屋・ガシイを中心に縦パスからの変化攻撃で西ドイツ陣を割り、着々とリード、その好調を後半にも持ちこんで6分12−7にと優位に立った。

だが、予選で東ドイツ（世界2位）を破り、金メダルへ意欲を燃やす西ドイツがこのまま引っこむわけがない。

ソ連のめまぐるしい選手交代のスキを巧みについてじわじわと得点をかえし、26分には15−16と追いあげた。

残り4分、ソ連も完全に浮足だっていたのだが、27分クラフゾフ

得	【ソ連】		【西ドイツ】	得
0	イチエンコ	GK	ボフマン	0
0	トミン	GK	ヤスケ	0
1	マキシモフ	FP	ハーン	2
0	クシニリュク	FP	デッカルム	7
1	イリイン	FP	クレイブリンク	2
6	ガシイ	FP	クルースパイス	2
3	キドヤエフ	FP	スペングラー	1
3	クラフゾフ	FP	ベッカー	0
3	クリモフ	FP	アーレット	1
0	アンピロゴフ	FP	ブラント	1
1	チエルニショフ	FP	ブッシェ	0
0	レザノフ	FP	ボットヒャー	0
18	（4）	PT	（4）	16

がポストプレーを鮮やかに決めて17―15。大型選手の間にはさまってこの174㎝のテクニシャンのみせた冷静な球捌きは光るものがあった。

西ドイツは29分クレイブリンクのゴールで望みをつないだが、ソ連は29分27秒、キドヤエフがダメ押しのシュートを放って激戦の幕がおりた。

これでユーゴの4勝を追ってソ連、西ドイツが3勝1敗で並び、A組は予想どおりの乱戦模様を描いている。　（J・ロートレイ）

ソ　連 24（11―7 / 13―9）16 デンマーク

○……ソ連は同じ時間モントリオールで行なわれているユーゴ×西ドイツ戦の経過を気にしての最終戦。

ユーゴが負ければという他力本願ながら、その気力はすばらしいものがあった。特に24分8―7から一気に5点をあげた強引な攻撃はすさまじいもので、デンマークは完全にここで斗志を失った。

そして、この気力が、一るの望みをかけたA組1位の幸運をもたらすことになったのである。

西ドイツ 18（8―10 / 10―7）17 ユーゴ

○……なんともスリリングな一戦であった。

A組の優勝争い、一角のソ連は160キロはなれたシャーブルック市でデンマークと対戦している。勝つか引き分ければすんなりユーゴ、もしユーゴが敗れれば三者同率となる。

得	【西ドイツ】		【ユーゴ】	得
0	ホフマン	GK	ゾルコ	0
0	ラウエル	GK	アルスラナヂッチ	0
1	ハーン	FP	クリボカピッチ	0
0	ボットヒャー	FP	ラジエノビッチ	1
4	クルースパイス	FP	カラリッチ	2
0	クレイブリンク	FP	セルダルヂッチ	2
3	スペングラー	FP	ホルバト	0
1	ベッカー	FP	ポクラヤク	0
0	ブッシュ	FP	ミルヤク	0
3	デッカルム	FP	ポポビッチ	2
4	アーレット	FP	ボヨビッチ	0
2	ブラント	FP	パピセビッチ	10
18	（4）	PT	（1）	1

各国の1点々々が、金メダルを争う資格へとつながるのである。

しかも、この試合は因縁がからむ。

西ドイツベンチにすわるステンツエル監督は、4年前ユーゴを金メダルに導いた人だ。

よりによって、この局面で両国が顔を合わせるとは。ステンツエル氏の胸中は、ユーゴ選手の胸中は……。

試合はもつれにもつれた。

序盤はユーゴ、前半なかばすぎから西ドイツが戦局を有利に導き特に後半10分以降は、完全に西ドイツのペースになった。

気になるソ連は、ハーフタイムで6点のリード。

西ドイツ選手は若さにまかせてなだれこむ。14分30秒14―9と初めて5点差がついた。

残り10分17―12と西ドイツリード。同じ時間、ソ連はデンマークに9点差、この時点で総合得点差はソ連が35、西ドイツ25。

西ドイツベンチにこの情報と計算は当然あったと思う。

そして、それが「絶望」を意味していたことも。

ここから、試合の主役はユーゴに移る。

引き分けでもいいユーゴは、最後の力をふりしぼって反撃に転じた。

ホルバトがマークされ、ミルヤクが警戒されたスキをパピセビッチがついてPTを含む連続3ゴール、一気に差が詰まった。

完全に守勢に立たされた西ドイツだが、27分ブラントがねじこみ18―15。結果からすれば、この1点が、ユーゴの野望を潰したのである。

残り2分、ユーゴはパピセビッチがPTを決めて16―18。

ユーゴのベンチは総立ちだ。全員が何やらわめき、コート上の選手の目は血走る。

残り25秒セルダルヂッチがゴール17―18。

ボールが西ドイツに渡されるやユーゴの激しい当りはPT。しかし、場内の異様なムードにのまれてデッカルムは失敗。

ユーゴに奇跡が訪れるかと思った瞬間、無情の笛が鳴った。

ぼうぜんと立ちつくすユーゴ、大敵を倒しながらも1位を逃した西ドイツ。なんともいいようのない幕切れであった。（杉山＝カナダTVの中継から）

〈A組個人得点5傑〉①ラルセン（デンマーク）29②ミルヤク（ユーゴ）27③藤中（日本）・デッカルム（西ドイツ）24⑤ガシ・マキシモフ（ともにソ連）19。

6位まで世界選手権Aに

IHF（国際ハンドボール連盟）は、モントリオールオリンピックの男子6位までに、明後年1月26日から2月5日までデンマークで開かれる第9回世界選手権Aグループの出場権が与えられると発表した。

Aグループは、このほか開催国（デンマーク）とアジア、アメリカ、アフリカ各大陸代表、それにBグループの上位6カ国の合わせて16カ国によって争われる予定。

Bグループは来年2月25日から3月6日までオーストリアで行われる。

〈注〉日本は来年に予定されるAグループアジア予選（詳細未定）に参加の予定。

ポーランドの健斗目立つ

B組

ルーマニア 23（10―10、13―8）18 ハンガリー

○……B組の優勝争いにひびく一戦だったが、ルーマニアは名手ガツの巧配球を軸に、最後まで主導権を握りつづけて制勝、どちらかといえば、期待はずれの凡戦に終った。

ルーマニアの攻守は、ソ連、ユーゴなどに比べてけして力感はないが、実に理詰めである。

それが、勝負どころを逃さぬ一気の攻めにつながり、固い守りとなる。

1点差でついていたハンガリーが、あっという間に6点差（前半24分、13―7）をつけられ、後半もなかばすぎ、いったん2点差（15―17）まで追いあげながら、そのあとたたみかけられて26分には22―16と差を開かれてしまっている。

ルーマニアベンチの用兵も巧みだ。エース・ビルトランさえ、時には休ませる。

それでいて、チーム力が落ちないのはさすがである。

終ってみるとハンガリーは防戦一方で、勝機というものはなかった。（杉山）

チェコ 28（13―7、15―13）20 アメリカ

ポーランド 26（14―5、12―7）12 チュニジア

（注）この試合は、チュニジア選手団の引揚げで、後日「無効」となる。

ポーランド 18（11―8、7―8）16 ハンガリー

○……ポーランドがすばらしい追いこみをみせてダークホースの印象を強めた。

前半の劣勢に加え、後半も連続失点して7―10とされたポーランドは、後半9分、相手守備陣の要コバクスが5分間退場のスキをついて反撃、14分1点差に迫った。

ハンガリーもいったんは態勢を立てなおしたが、勢いづいたポーランドは、24分15―14と逆転に成功、26分追い討ちをかけて2点差とし、ハンガリーを振り切った。

メダルを狙う両国だけに、ハナから一歩も引かぬぶっかりあいで迫力にあふれた好試合だったが、両チームあわせてPT13本が課せられ、このほか警告6回、退場5回と荒れたのはいただけない。

ルーマニア 32（16―11、16―8）19 アメリカ

チェコ 21（11―6、10―3）9 チュニジア

（注）この試合は、チュニジア選手団の引揚げで、後日「無効」となる。

ハンガリー 36（18―12、18―9）21 アメリカ

ポーランド 21（13―11、8―7）18 チェコ

ポーランド 26（12―10、14―10）20 アメリカ

○……アメリカが斗志をむき出しにして挑んだため、近来にないラフゲームとなり、終盤はひっきりなしにレフェリーの笛がなり、PTと退場宣告がつづいた。

後半23分にはボデイチェックをめぐってアブラハムソンが血相かえてポーランド勢に詰めよるシーンもあり、プロアイスホッケーの乱闘をよく知る地元ファンの大歓声（?）をあびるありさま。

試合はポーランドが左腕・クレムペルのダイナミックなシュートを主に着々とリードを奪ったが、アメリカは、後半プレス気味のディフェンスを布く積極策に切り替えて成功、13分には15―19まで詰めたが、ポーランドの精力的な攻撃は最後まで劣えることなく、GKロジミアレクの好パスアウトもあって、アメリカをねじふせた。（杉山）

ルーマニア 19（6―9、13―10）19 チェコ

○……前半21分でルーマニアが9―5、そのままのペースで終るかにみえたが、チェコは後半、ディフェンスの素晴しい動きで、ルーマニアの攻撃を封じ、マイクスの活躍もあってじわじわと点差をつめ、13分クレピンドルでついに同点（16―16）、17分スルクで逆転というみせ場をつくり場内をわかせた。

ルーマニアも、このチェコの粘りは予想外だったようで、18分ガツで同点としたものの焦りがのぞき、いっそうチェコ守備網に引っかかって大きく先行できず、22分ガツの巧技で19―18としながら、そのあとリクが5分間退場をくい残り時間1分30秒チェコのマイクスに同点シュートを許してしまった。

前回2位のチェコの意地というより、ルーマニアのデキが悪すぎた。

ハンガリー 22（12―9、10―11）20 チェコ

ルーマニア 17（9―9、8―6）15 ポーランド

○……残り9分で12―12、さすがにB組1位をかけた一戦にふさわしく熱をおび、もつれた。

しかし、最後にきて、どうしても勝たなければならないルーマニアと、引き分けでもいいポーランドの気持ちの差が現れた、とみるのはうがちすぎか。

ルーマニアは22分のPTをビルトランが決め、さらに1分後プレス気味の守りから相手ミスを誘って速攻、リクが得点して14―12、ここでの2点差は大きい。

ポーランドも粘るが、どうしても同点にはならない。

ルーマニアの攻守は迫力に満ちすべてに積極的である。

残り28秒で16―15、本来ならキープを狙うところだが攻める。

残り8秒、ストックルが会心のシュートを決めて17―15、勝負が決まった。

B組におけるポーランドの健闘は光ったがこの試合に限っていえばもう少し果敢に試合を進めてもよかった。

〔B組個人得点5傑〕①ビルトラン（ルーマニア）29 ②バルガ（ハンガリー）・マイクス（チェコ）21 ④アブラハムソン（アメリカ）20 ⑤ディーン（アメリカ）18

得	【ルーマニア】		【ポーランド】	得
0	ペヌ・191	GK	ススムサク・193	0
0	ムンチアーヌ・187	GK	ロスミアレク・181	0
1	ガツ・178	FP	アンチャク・190	1
1	リク・186	FP	ククタ・189	0
8	ビルトラン・194	FP	クレムペル・192	6
2	ストックル・188	FP	カルジンスキー・190	2
2	グラボブスチー・196	FP	グミレク・177	2
1	ボアナ・185	FP	ソコロウスキー・192	2
0	ドラガニータ・188	FP	ブルゾゾウスキー・173	1
1	コスマ・180	FP	メルサー・196	1
1	ツドシエ・188	FP	シエスラ・184	0
0	キクシト・194	FP	プルジビス・187	0
17	（3）	PT	（1）	15

ポーランド、3位に躍進
西ドイツ4位、ユーゴは5位

順位決定戦

7〜8位 7月27日午後3時20分、クロードロビアールセンター、審判＝ヘンゼル、ローフス（東ドイツ）

チェコ 25（11−13、14−8）21 デンマーク

得	チェコ		デンマーク	得
0	パッカ・188	GK	ヨルゲンセン	0
0	セパク・184	GK	ピーチニック	0
5	スルク・182	FP	イエンセン	3
5	サトラパ・182	FP	ダル・ニールセン	4
1	ヤリイ・183	FP	ボック	4
3	カバン・174	FP	フラントセン	0
4	マイクス・182	FP	フリヨーム	1
1	ハーベル・176	FP	パジイ	3
0	クレピンドル・185	FP	ラーセン	3
5	ハンスル・182	FP	アンデルセン	2
0	パピエルニック・179	FP	ヤコブスガルト	1
1	ドブロッカ・181	FP	ムンカゲル	0
25	（1）	PT	（2）	21

○……前回銀メダルのチェコにはさすがが気落ちした表情がみられデンマークの元気にあふれた攻撃をうけて前半22分7−12とリードを許した。

誰の目にもデンマーク有利とみえたのだが、一つきっかけをつかむと地力があるだけに5点差も痛手にはならない。

気をとりなおしたチェコは25分すぎから、にわかに反撃をみせてあっという間に1点差とした。

デンマークもよく持ちこたえ、後半17分18−18と初めて追いつかれたが、すぐ引き放し逃げ切りの色が濃かったのだが、チェコは20分20−20としてから一気にスパート、4点を積みあげてあっさり主導権を奪い押し切ってしまった。東欧勢のすさまじさ、無気味さをみせつけた一戦といえる。（J・ロートレイ）

5〜6位 7月27日午後7時2分、クロードロビアールセンター、審判＝ビトルス、キウスル（ソ連）

ユーゴ 21（11−9、10−10）19 ハンガリー

○……ユーゴに緊張を望むほうがムリであった。

さして好調とは思えぬハンガリーに調子を合わせたような展開で優位に立ったのは前半22分頃。それもすぐハンガリーの追撃を許してせりあいをつづけた。

残り6分ようやく4点差をつけて5位の見通しをたてたものの、大会前、あるいは優勝カードにと思われた試合も、気の抜けた内容に終始した。（J・ロートレイ）

得	ユーゴ		ハンガリー	得
0	ニムス	GK	B・バータロス・182	0
0	アルスラナジッチ	GK	ベロシ・191	0
1	ボヨビッチ	FP	ブダイ・191	0
4	ラゼノビッチ	FP	コバクス・196	5
4	カラリッチ	FP	バルガ・190	0
0	パビセビッチ	FP	スボルトス・179	1
7	セルダルデッチ	FP	スジラジイ・183	5
0	ホルバト	FP	ヤノブスキー・185	0
2	ポクラヤク	FP	バス・194	6
0	テイムコ	FP	グバニイ・190	1
3	ミルヤク	FP	コントラ・187	1
0	ポポビッチ	FP	ケニエレス・179	0
21	（6）	PT	（5）	19

3〜4位 7月28日午後5時、フォーラム、審判＝ニルソン、オルソン（スウェーデン）

ポーランド 21（11−9、6−8、……3−1、1−0）18 西ドイツ

○……銅メダルがかかっているだけに白熱し、決勝の前座として申し分ない盛りあげ役を果たした。

互いに一歩もゆずらぬ経過をたどり後半14分まで実に同点10回。ここでポーランドが初めて3点を先行し3分45秒という残り時間から勝負ありと思えたのだが、西ドイツの粘りは驚異的、1点差に詰め寄ったあと、残り8秒デッカルムの執念じみた一投が決まって延長、一万をこすファアンを熱狂させた。

延長後、先行したポーランドはいったん追いつかれたが、メルセル、グミレク、ククタの連続ゴールで、さしもの激戦に結着をつけた。

ポーランドは後半28分のPTを失敗しなければ、延長を味わずに勝ったのだろうが、それにしても気合いの入った好試合でハンドボールの醍醐味を満喫させた（杉山＝カナダテレビの中継から）

得	西ドイツ		ポーランド	得
0	ホフマン	GK	スジムサク・193	0
0	ラウアー	GK	ロスミアレク・181	0
3	ハーン	FP	シエスラ・184	0
0	ブッヒャー	FP	アンチャック・190	2
0	クルスパイス	FP	ククタ・189	2
0	クレイブリンク	FP	クレンペル・192	6
4	アーレット	FP	ブロゾゾウスサー・173	1
2	スペングラー	FP	プリビイシス・187	1
0	ベッカー	FP	メルセル・196	1
4	ブッシュ	FP	ソコロウスキー・192	0
4	デッカルム	FP	グミレク・177	2
1	ブラント	FP	カルジンスキー・190	6
18	（1）	PT	（2）	21

カナダが11位 チュニジアが政府の決定にしたがい、大会途中で棄権したため、大会本部は同国の予選リーグ1、2戦を無効とし、順位決定戦もA組6位のカナダを自動的に11位として処理した

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

ソ連、終始リードを奪う
守りの乱れたルーマニア

決勝戦

金メダルをかけたソ連×ルーマニアの決勝戦は、28日午後6時50分からモントリオール市のフォーラムで行なわれた。審判=レイチェル、テテン(ともに西ドイツ)、観衆=約一万四千

ソ連 19 (10―6 9―9) 15 ルーマニア

得	【ソ連】		【ルーマニア】	得
0	イチェンコ	GK	ペヌ	0
0	トミン	GK	ムントアーヌ	0
0	フェディユキン	FP	キクシト	2
4	マキシモフ	FP	ガツ	0
0	クシニリュク	FP	リク	4
2	クラフゾフ	FP	ボワナ	0
1	クリモフ	FP	グネスク	0
2	アンピロゴフ	FP	ビルトラン	3
1	チェルニショフ	FP	コスマ	1
6	ガシイ	FP	ツドシエ	0
3	キドヤエフ	FP	ストックル	1
0	レザノフ	FP	グラボバフスチー	4
19	(2)	PT	(2)	15

○……会場は、女子体操でコマネチ(ルーマニア)の10点演技にわき、日本女子バレーボールの圧勝にわいたフォラム。

カナダではまだなじみのうすいハンドボールだったが、一万四千の入場券は6月末に売り切れていた。

欧州系の人たちの多いモントリオール周辺だけに、その心配は取りこし苦労だったらしい。

決勝に駒を進めたのはまさに予想どおり、今季絶好調のソ連と世界チャンピオンのルーマニア。

マキシモフ、ガツという当代随一の人気選手を主軸に最高のカードである。

ソ連は202cm、100kgのチェルニショフの豪快なシュートで滑り出しつづくPTをマキシモフが決め、4分2―0。

ルーマニアは6分リクが返して緊迫したムードがつづく。

13分5―3としたところでソ連はレザノフが2分間の反則退場、ルーマニアとしては絶好の反撃機だったが、相手GKイチェンコの美技から逆に速攻をうけてスコアは6―3となる。ルーマニアにとってこれは誤算だ。

ビッグゲームというのは、えてしてこうしたプレーが一つのきっかけになる。

この日のルーマニアがそうだった。攻撃にテンポが出ず、守りの歯車が合わない。

ソ連の積極的な攻めは18分ガシイ20分クラフゾフの得点に実り8―3。

ルーマニアは21分ストックルが4点目をあげたが、実に3点目から9分14秒も経っていた。

36才のクリモフを要としたソ連ディフェンスのリク、グネスク、ビルトランに対するマークが実によかった。

巧者ガツも、これでは好パスが送れない。

○……後半、反撃を期待されたルーマニアだが、逆に傷口が拡がり2分20秒12―6となった。

ルーマニアはようやく3分リクが得点、ソ連はこのあとのPTを失敗、すかさずルーマニアは再びリクが会心のショットで8―12。盛りあがりを見せた。

結果からすれば、ルーマニアにとってここからの5～10分間がヤマ場だったろう。

ところが、ルーマニアの守備陣は、タテにタテにと突いてくるソ連の攻勢に押されて点を失い、せっかくの反撃に水をかけた。

15分キドヤエフの退場を活かしルーマニアは10―15、さらに好機はつづいたのだが、ソ連は17分アンピロゴフが投げおろして優位をキープ。

このあたりから優位のソ連ディフェンスに荒さが目立った。

目の色を変えて攻めこむルーマニア攻撃陣の底力を知る彼らは、6点のリードでも安心できなかったのだろうか。

ついに23分4秒クラフゾフ、23分32秒チェルニショフが相次いで反則退場を課せられ、1分28秒間というものソ連FP陣は4人で戦わなければならなくなった。

この好機にルーマニアは24分グラボバフスチー、24分46秒リクで13―17とせまり場内は騒然。

しかし、ソ連はクラフゾフが復帰するや、5人ながら果敢に攻めこみ、26分アンピロゴフがゴールし勝利を不動のものとした。

○……ソ連の絶好調に比べ、ルーマニアは最後まで本来の鋭さを見せることができず、最初から最後までソ連のリードで進むという決勝戦にしては、いささか変化に乏しい展開であったが、互いに力と技を応酬させ、見応えのある60分間だった。とりわけソ連イチェンコの堅守は場内を酔わせた。

ソ連がワールドタイトルを手にするのは初めて、しかも男女完全優勝という快挙はみごとといえよう。

（J・ロートレイ）

藤中、個人得点5位に

大会本部は決勝終了後、男子の個人別得点を次のように発表した

①ラルセン(デンマーク)・ビルトラン(ルーマニア)32③ミルヤク(ユーゴ)30④デッカルム(西ドイツ)28⑤藤中憲二(日本)26⑬佐藤(日本)21㉑蒲生(日本)17

下関中央工（3度目）と大分東（初）に栄冠

今年の高校日本一は下関中央工（山口）と大分東（大分）に決まった——第27回全日本高校選手権は8月2日から7日までの6日間富山県氷見市運動公園を主会場に，全国1622校のなかから選び抜かれた男女各49校が雨にたたられ，苦しめられながらも王座を争った。

男子は，地元氷見（富山）の進撃で盛りあがったが，名門下関中央工がスケールの大きい攻守でみごとに栄冠を獲得，7年ぶり3度目のタイトルを飾った。

女子は実力伯仲の激戦から前年2位の大分東が全試合失点を6以下におさえる抜群の守りと安定した攻撃で快勝，嬉しい初優勝となった。

来年度の大会は山口県山口市で行われる予定。

激戦つづいた全日本高校選手権

男子

▽1回戦

大阪市立（大阪）18（12－3，6－5）8 盛岡一（岩手）

大阪はツウポストからのブロック、カットインで得点、ロング攻法が決まらぬ盛岡を押し切った。

柏崎工（新潟）6（1－1，5－3）4 池田（徳島）

雨天のため凡ミスが多く、互いに持ち味を出せず苦しんだが、後半柏崎の中央攻撃がまとまった。

氷見（富山）21（8－5，13－5）10 四日市工（三重）

前半は互角といえたが、後半になると守備力の差があらわれ、氷見が一気の速攻で快勝。

麻生（茨城）17（7－7，10－4）11 八幡工（滋賀）

勝負のかかった後半、麻生はパス攻法が冴え、速攻機も逃さなかった。八幡は10分以降息切れた。

函館大谷（北海道）15（6－7，9－7）14 吉田（山梨）

12－12から函館はスカイプレーなどで2点をあげ、粘る吉田の反撃をかわした。

新居浜工（愛媛）14（9－0，5－3）3 大曲農（秋田）

雨中戦の巧拙がでて新居浜の一方勝ちとなった。大曲は相手の早いつぶしにあい力を出せなかった

明石南（兵庫）14（9－4，5－5）9 高松工芸（香川）

高松は終盤PTなどで懸命に追いこんだが、明石は前半のリードを巧く活かし振り切った。

川口工（埼玉）21（12－4，9－6）10 三本木（青森）

川口は、甘さのある三本木ディフェンスを組織プレーでゆさぶりシュートも確実に決めた。

市原（千葉）29（12－5，17－8）13 松江工（島根）

市原のフットワークのよさが目についた。松江は攻撃が単調で、もう少し横の動きが欲しい。

土佐（高知）13（6－6，7－6）12 熊本市商（熊本）

9－9のあと土佐は徳田の3連取で優位に立ち、熊本必死の反撃をおさえて逃げ切った。好試合。

坂城（長野）21（11－5，10－4）9 仙台育英（宮城）

仙台のパスワークの乱れを坂城がついて、意外にも一方的な展開となった。仙台は攻守に一本調子

東山（京都）13（8－4，5－8）12 神埼農（佐賀）

神埼は6－12の劣勢から平尾の大活躍で追いすがったが、東山は辛くも1点差を守った。

羽水（福井）15（9－6，6－7）13 倉敷工（岡山）

羽水はGKの好守で主導権を手放さず。倉敷は前半のミスがなければと悔やまれよう。

富岡（群馬）13（4－7，9－5）12 和歌山商（和歌山）

粘りの富岡が本領を発揮、10－12から同点のあと、最後のPTを石井が決めてサヨナラ勝ちした。

男子歴代優勝校

①	昭25	足利	（栃木）
②		桜台	（愛知）
③		桐生工	（群馬）
④		桜台	
⑤		桜台	
⑥		桜台	
⑦		桜台	
⑧		桜台	
⑨		清水高	（静岡）
⑩		中京商	（愛知）
⑪		中京商	
⑫		中京商	
⑬		桜台	
		～以上11人制～	
⑭	昭38	桜台	
⑮		明星	（東京）
⑯		桜台	
⑰		明星	
⑱		明星	
⑲		下関中央工	（山口）
⑳		下関中央工	
㉑		新居浜工	（愛媛）
㉒		湯沢	（秋田）
㉓		中大付属	（東京）
㉔		名城大付属	（愛知）
㉕		久留米工	（福岡）
㉖		清水	（千葉）
㉗	昭51	下関中央工	

県岐阜商（岐阜）11（4－6，7－4）10 修道（広島）

修道有利の経過だったが、岐阜は後半なかば巧みに逆転、相手の反撃を最少点に食い止めた。

奈良（奈良）19（7－4，12－3）7 延岡（宮崎）

互いによく走ったが、これといった決め手がなく、勝負は、後半にみせた奈良の確実さで決まった

名古屋市工（愛知）28（16－3，12－5）8 寺井（石川）

寺井は名古屋の好ディフェンスにあって勝機はまったくといってよいほどなかった。

清水（前年優勝）早々と敗退

川口工、東海五に辛勝

▽2回戦

大阪市立 14（10－5，4－4）9 清水（推・千葉）

清水は雨に災されたが、ボールが手につかず、ムードに乗り切れぬまま〝連覇〟の夢を捨てた。

大分東（大分）19（6－1，13－2）3 柏崎工

柏崎は、大分東の強引なプレーに圧倒され、得意のセットプレーも出ぬままに終った。

氷見 25（14－2，11－2）4 境港工（鳥取）

立ちあがりから氷見のペース。境港は相手の固い守りを最後まで攻めあぐんだままだった。

麻生 21（9－5，12－6）11 口力（長崎）

両軍GKの好守で緊迫のスタートだったが、しだいに麻生の多彩な攻撃がまとまり点差がついた。

前原（沖縄）20（12－4，8－5）9 函館大谷

前原は速いパスから大谷守備陣を切り崩し圧勝。大谷は攻撃も単調で、よいところがなかった。

新居浜工 12（6－2，6－3）5 浜松南（静岡）

新居浜は全員がよく走り、プレーにまとまりの欠ける浜松を押しこんだ。

県立商工（神奈川）8（4－5，4－1）6 明石南

明石は後半5分6－4と先行したが、そのあと足元の悪さで加点できず、商工の逆転を許した。

川口工 13（6－4、7－8）12 東海大五（福岡）

川口はノータイムで得たFTを矢作宜が決め劇的な勝利。東海の粘りから大いに盛りあがった。

市原 10（6－4、4－4）8 日体荏原（東京）

速攻の応酬で見応えがあった。市原は4点のリードをいちどタイにされたが、すぐPTで先行した。

坂城 26（9－9、17－7）16 土佐（高知）

前半の接戦から一転、後半は坂城の速攻が活きて、あっというまに大勢が決まってしまった。

学法石川（福島）12（7－6、5－5）11 東山

石川の先行を追いつづけた東山は残り3分ついに同点したが、石川はあわてず、直後勝ちこした。

羽水 16（9－2、7－6）8 国学院栃木（栃木）

羽水が長身を利した守備から速攻機をつかみ勝ち進んだ。国学院は雨で力が半減、気の毒だった。

富岡 11（3－3、8－2）5 大石田（山形）

4－4から富岡はスピードとジャンプ力を活かして5点連取、鮮やかな集中攻撃で大石田を制した

県岐阜商 14（8－2、6－4）6 隼人工（鹿児島）

隼人は後半こそ動きが滑らかとなったが、前半は単調で、そのスキを岐阜商に走りこまれた。

高岡日大（富山）16（5－4、11－2）6 奈良

高岡は後半二本のPTを活かしてペースをつかみ押しまくった。奈良は粘りが後半全くなかった。

下関中央（山口）16（10－6、6－2）8 名古屋市工

候補同士。下関は定評どおりゴール前のスピード、鋭いパスワークで加点、力に頼る名古屋を破った。

富岡×岐阜商粘りあう

学法石川、羽水に快勝

▽3回戦

大分東 10（5－4、5－5）9 大阪市立

大阪は後半16分初めて9－8と先行したが、大分は20分同点のあと、22分南が貴重な勝ちこし点をあげ押し切った。大阪はたえず後手に廻っていたのが惜しまれる。

氷見 16（8－8、8－5）13 麻生

熱戦だった。互角の前半から氷見は後半多彩なチームプレーで優位に立ち、20分15－11とリード。麻生も変化に富んだ攻めをみせたが、反則退場などがひびいた。

新居浜工 14（10－1、4－6）7 前原

前原は4分PTで幸先よくスタートしたが、そのあと新居浜工の猛攻をくい、前半で勝負がついた。新居浜は、GKの堅守を要に基本に忠実な攻守で危気なかった。

川口工 14（9－5、5－6）11 県立商工

川口は前半9点のうち矢作宜が8点を叩きだす活躍で主導権を握った。商工も小柄ながらよく走り特に後半の追撃はみごとといえた。

それだけに前半の失点が惜しい。

坂城 15（7－4、8－5）9 市原

ボールのつなぎが巧い坂城は、カットインに鋭さをみせて市原守備陣を攻め崩した。

市原は、後半勝負どころであと一押しできなかったのが痛かった。

学法石川 21（8－2、13－4）6 羽水

スピードに優る石川は前半速攻後半になるとセットで得点という巧みなチェンジ・オブ・プース。

羽水は完全にリズムを断ち切られ、散発的な得点にとどまった。

富岡（抽せん勝ち）9（1－4、5－2、1－1、2－2）9 県岐阜商

引き分け

残り2分で2点差をはね返し同点とした富岡は、延長後はむしろ押し気味。

しかし、岐阜は延長後半残り6秒荒井が引き分けのシュートを決めた。

下関中央 25（11－6、14－3）9 高岡日大工

下関は強い。高岡がミドル攻法でなんとか食い下ろうとするのだが、速攻、セットの機に応じた使い分けと、固い守りで、ほとんどつけいるスキを与えなかった。

大分東、延長で散る

川口工は新居浜工制す

▽準々決勝

氷見 16（7－11、6－2、3－0、0－1）14 大分東

【大分】	得		【氷見】	得
林	0	GK	川井	0
筑浜	0	GK	旅	0
富来	1	FP	迯目	1
楠本	0	FP	上坊寺	0
志村	2	FP	船木	1
出来本	0	FP	狩野	2
荻本	2	FP	吉井	7
浅井	0	FP	中浦	0
吉良	0	FP	西山	4
南	8	FP	松屋	1
奈須	0	FP	大門	0
篠田	1	FP	佐伯	0
14	（2）	PT	（2）	16

（審・日野　石切山）

すばらしい試合の末、氷見が地元の大声援に応えた。氷見は後半15分9－12と苦しかったのだが追いあげ、延長後は勢いにのった強さをみせつけた。大分は不運。

川口工 16（8－4、8－3）7 新居浜工

【新工】	得		【川口】	得
宇野	0	GK	会田	0
藤本	0	GK	伯耆田	0
城戸	0	FP	矢作宜	6
島田	1	FP	矢作武	3
森	3	FP	石沢	0
日野	0	FP	日下部	0
高木	0	FP	鵜川	1
定岡	3	FP	佐藤	6
福田	0	FP	小林	0
明日	0	FP	浅倉	0
大野	0	FP	小川	0
十亀	0	FP	長瀬	0
7	（0）	PT	（3）	16

（審・大塚　岡前）

川口が確実にロングを決めたのに対し、新居浜は惜しいミスがつづき、その差が点にあらわれた。後半も川口は攻守に着実なプレーを重ね、一方的だった。

学法石川 15（7－2、8－9）11 坂城

得	【石川】		【坂城】	得
0	関根	GK	赤地	0
0	福田喜	GK	足立	0
0	宗形	FP	柳沢	0
2	佐川	FP	宮城	1
5	三本松	FP	酒井	4
1	本郷	FP	山辺	4
0	戸谷	FP	古河	0
2	渡辺	FP	唐沢	1
0	福田勉	FP	倉石	0
4	栗田	FP	利根川	1
1	矢吹	FP	青木	0
0	太楽	FP	西沢	0
15（1）		PT		（1）11

（審・岡前、大塚）

前半は意外な凡戦、後半は緊迫した接戦。わずかな心の動きが様相を一変させるいかにも高校生らしい試合。惑星同士にふさわしく実力伯仲、見応えは充分にあった

下関中央工 22（9－5、13－5）10 富岡

得	【下関】		【富岡】	得
0	井本	GK	佐藤	0
0	久保	GK	落合	0
4	飯山	FP	沢木	1
5	島中	FP	石井	3
5	溝部	FP	岡田	2
2	篠田	FP	市川	2
3	東	FP	飯塚	2
1	林	FP	石田	0
0	岸野	FP	吉沢	0
2	松川	FP	寺山	0
0	浜本	FP	永井	0
0	河村	FP	岩井	0
22（2）		PT		（1）10

下関は自らのペースに相手をはめこむのが巧い。それだけ全員に自信があるのだろう。

富岡もなんとか突破口をと望むのだが、はね返されてしまった。

氷見、後半一気の勝負

▽準決勝

氷見 19（7－6、12－4）10 川口工

得	【氷見】		【川口】	得
0	川井	GK	会田	0
0	旅	GK	伯耆田	0
0	迯目	FP	矢作武	1
0	上坊寺	FP	矢作宣	5
5	船木	FP	石沢	0
1	狩野	FP	日下部	1
8	吉井	FP	鵜川	2
0	中浦	FP	佐藤	1
4	西山	FP	小林	0
1	松室	FP	浅倉	0
0	大門	FP	小川	0
0	佐伯	FP	長瀬	0
19（1）		PT		（1）10

（審・梅田、狩野）

力は五分。そのバランスが後半10分で崩れた。氷見は僅かな点差で動きに余裕が生じ、逆に川口は焦りから手、足が縮ってしまった10分11－8、20分17－8。リズムの重要性を今さらながらに痛感させられた。

（丸岡 清）

石川は下関につけこめず

下関中央工 28（15－3、13－5）8 学法石川

得	【下関】		【石川】	得
0	井本	GK	関根	0
0	久保	GK	福田喜	0
3	飯山	FP	宗形	0
9	島中	FP	佐川	0
5	溝部	FP	三本松	1
5	篠田	FP	本郷	2
3	東	FP	戸谷	0
2	林	FP	渡辺	1
1	岸野	FP	福田勉	0
0	松川	FP	栗田	4
0	浜本	FP	矢吹	0
0	河村	FP	太楽	0
28（4）		PT		（3）8

（審・幸田、新井）

下関は立ちあがりから多彩な組織攻撃をみせ15分早くも9－1。

そのあとも攻撃の手をゆるめず容しゃなく得点を加えた。

石川は、なんとか点差だけは縮めようとロング、ミドルなどを試みるが効果なかった。（大塚文雄）

氷見、必死の反撃実らず

▽決勝

下関中央工 16（7－4、9－7）11 氷見

得	【下関】		【氷見】	得
0	井本	GK	川井	0
0	久保	GK	旅	0
3	飯山	FP	迯目	2
4	島中	FP	上坊寺	0
4	溝部	FP	船木	1
1	篠田	FP	狩野	0
2	東	FP	吉井	1
2	林	FP	中浦	0
0	岸野	FP	西山	6
0	松川	FP	松室	1
0	浜本	FP	大門	0
0	河村	FP	佐伯	0
16（2）		PT		（2）11

（審・井上、丸岡）

序盤はさすがに両チームとも堅さがとれず凡ミスがつづいたが、4分下関の溝部のゴールでようやくほぐれ、互いに持ち味がでて20分4－4とせりあった。

しかし、下関がこのあと3点を加えたのは大きく、その後の戦局を左右した。

余裕のでた下関は後半、コンビプレーを仕掛け5分9－4。

氷見はなんとか反撃機をつかもうとするのだが、相手の鋭い出足につぶされ、ようやく15分すぎ3点連取で10－13としたものの、そのあとPTで再び傷口が拡がり、24分12－15と粘ったが及ばなかった。

下関の技術、特に絶妙のコンビネーションは絶讃に価し、ここまでみがきあげた指導者に敬意を表したい。

また、氷見のチームワークのとれた健闘を心から讃える。

（幸田末之）

高校界、69％の勢力

日本協会はこのほど昭和51年度登録チーム数を発表した。

それによると総チーム数は二、三六二（男一、六〇九、女七五三）で、前年より一四九チームの増加で、相変らず高校界の伸びが目立ち67校のプラスを示している。

高校チームの占める率は69％弱（総計一、六二二＝男九七一、女六五一）。

学生男子の14増をはじめ各部門増加のなかで一般男子Aだけはマイナス三の二七二チームとなった。

（数字は5月31日現在）

日本は男女とも不参加

世界ジュニア選手権

IHF（国際ハンドボール連盟）はこのほど、来年4月スウェーデンで行われる第1回世界ジュニア男子、3月ルーマニアで行われる同女子の参加申しこみ国を発表した。

それによると男子は24カ国、女子は14カ国で日本は男女とも不参加である。

アジア地域からは韓国、インドが男女エントリーしているほか、イスラエル、クウェートが男子に出場の予定。

この大会は地域予選を行わずいきなり本大会となる。

（注）日本協会は4月17日の月例常務理事会で検討後、この問題について具体的な動きを示していなかった。

小松市女、3回戦で退く

女子

▽1回戦

盛岡二（岩手）6（2－2 4－1）3 守山女（滋賀）

盛岡は後半どうにか攻撃をまとめたものの、前半は雨のためまったくの低調、苦しい展開だった。

山陽女（広島）9（4－3 5－3）6 米沢女（山形）

大型同士だったが、山陽は後半にはいって試合運びの巧さをみせた。米沢GKの好守が光った。

日川（山梨）7（0－3 4－1 …… 1－1 2－0）5 和洋女（秋田）

0－4とされた日川は3本のPTなどで延長にもちこみ、古屋、広瀬和のゴールで大敵を降した。和洋は絶対有利の形を崩されたのだからあきらめられまい。

明倫（神奈川）18（7－2 11－2）4 美須々ケ丘（長野）

スピード、特に脚力の差があらわれた。美須々ケ丘も好機はあったがシュート力に欠けた。

熊本女商（熊本）13（7－3 6－3）6 三本松（香川）

ダークホース同士だったが熊本がPT、ポストなどで波にのり、三本松に反撃機を与えなかった。

藤村女（東京）11（5－4 6－5）9 夙川学院（兵庫）

洗れんされたパス攻法でテンポのある好試合となったが、藤村は後半はじめの主導権を守った。

高田女（富山）13（9－5 4－1）6 辻（徳島）

セットプレーに頼る辻は、高岡守備陣にその攻め口を読まれたあとは動きがとれず敗れた。

江南（新潟）8（4－0 4－0）0 生駒（奈良）

泥ねいも手伝ったが、最近ではめずらしい零封試合。生駒の実力は、もっと高かったろうに……。

青森西（青森）7（4－3 3－1）4 津山商（岡山）

津山が後半3分4－4にしたあと重苦しい展開となったが、青森は残り5分下村の連取で辛勝。

佐世保商（長崎）9（5－3 4－3）6 福島女（福島）

最後まで予断を許さなかったが佐商は後半5分までにとった3点のリードを守り切った。

有磯（富山）14（7－2 7－5）7 函館女商（北海道）

函館は有磯の当りの早い守りにあって外側でボールを廻すだけ。

有磯は攻めても手固く順当勝ち

春日丘（大阪）11（6－3 5－6）9 浦添（沖縄）

浦添の善戦でもつれた。浦添は後半相手を上廻っただけに、前半なかばの乱れが悔やまれよう。

新居浜商（愛媛）4（2－1 2－1）2 群馬女短大付（群馬）

雨のため互いに充分な力を出せず、新居浜が3－2から18分ダメ押し点でどうにかメドをつけた。

昭和学院（千葉）18（12－2 6－3）5 北陸大谷（石川）

関東1位の昭和が豪快に攻めまくり前半で決めた。大谷は相手の守りを崩すだけの力に欠けた。

県岐阜商（岐阜）8（3－2 5－5）7 浜田商（島根）

二転三転の末、岐阜は後半13分のリードをだいじに守り通した。

浜田は終盤の好機を逃しすぎた

新宮（和歌山）12（7－4 5－2）6 国学院栃木（栃木）

矢次早やの得点で優位に立った新宮は、追われながらも余裕があった。栃木はミスが多く自滅。

有力校、雨に苦しむ

小林商、明倫に惜敗

▽2回戦

小松市女（推・石川）10（7－0 3－2）2 盛岡二

点差は開いたが最後まできびきびした動きの一戦。盛岡は前半、守りが固まらなかったのが残念。

日川 5（2－2 3－2）4 公・古賀（福岡）

古賀は後半17分1点差にせまり好ペースとみえたが、そのあとどうしても追いつけずに終った。

市邨学園（愛知）3（1－0 2－2）3 山陽女

山陽女の追撃も及ばず市邨の逃げ切り。実力校同士だったが、雨にたたられ、両校とも不満足だ。

熊本女商 13（6－0 7－4）4 仁愛女（福井）

熊本は後半5分までに連続10ゴール。仁愛はよく走りながらシュートが逸れるなど不運に泣いた。

明倫 15（3－5 8－6 …… 2－1 2－0）12 小林商（宮崎）

主導権がめまぐるしく移りあったあと延長。小林は3分川辺で先行したが、明倫は久江で同点のあと、渡辺の活躍で差を拡げた。元気にあふれた好試合といえた。

徳山（山口）14（8－0 6－2）2 藤村女

徳山は個人技を巧くチームプレーに同化させ鮮やかな試合ぶり。藤村は先行されてもろさを露した

国分実業（鹿児島）12（6－2 6－2）4 高岡女

セットからみせる国分の変化は鮮やか。高岡は再三好機があったが、詰めが甘く活かせなかった。

清水市商（静岡）6（5－1 1－3）4 新潟江南

清水が後半追加点をあげられぬスキを江南が追いこみ11分4－5としたが、清水は辛くも立直った

有磯 8（2－2 6－2）4 佐世保商（長崎）

後半開始と同時に有磯はスパート、8分で。佐世保はそのあとPT2本を返しただけだった。

水海道二（茨城）6（2—2、1—1、…、1—1、2—0）4 青森西

両校泥まみれの激戦。互いに充分な動きは望めず、特に後半はPTだけの得点という展開で、延長後半の決勝点もPTだった。好条件で戦わせたいカード。

涌谷（宮城）10（4—1、6—6）7 春日丘

涌谷は要所で得たPTを慎重に活かして主導権を手放さなかった。

春日丘は前半の逸機がたたった。

昭和学院 9（5—2、4—1）3 深谷一（埼玉）

長身の成田に球を集めた昭和の完勝だったが、エースを活かす全員の動きのよさが深谷をしのいだ。

新居浜商（抽せん勝ち）5（3—0、0—3、…、1—1、1—1）5 米子南商（鳥取）

引き分け

米子は残り1分山本が執念の一投を決めて同点。延長後は新居浜佐々木、米子・山本、小笹の投げ合いとなったが結着がつかなかった。米子は前半の不調が痛い。

神埼農 12（8—0、4—4）4 津女（三重）

スピード充分な神埼は、ロングに活路を見出そうとする津の攻撃の芽を封じては速攻、快勝した。

県岐阜商 13（8—1、5—2）3 中村（高知）

中村はコンビの調整にいま一つ欠け、岐阜の反撃を浴びて前半で取り返しのつかぬ点差を許した。

大分東（大分）20（11—0、9—2）2 新宮

前年2位の大分が、後半14分までに17点連取という快記録、強さをまざまざとみせつけた。

水海道二、有磯に抽せん勝ち

国分実業、清水商かわす

▽3回戦

日川 6（3—3、3—2）5 小松市女

小松が苦しみながらも後半15分5—5とした時は、ペースをつかんだとみえたが、気力充分の日川は17分カットからの速攻でPT、石原が決め、殊勲となった。

市邨学園 12（5—1、7—5）6 明倫

動きに勝る市邨は前半圧倒的な試合運びで主導権を握り、そのまま押し勝った。

明倫は、後半どうにか立ちなおったものの、時遅かった。

熊本女商 7（3—2、4—2）4 徳山

激しい一戦だった。先行を許しながら徳山は反撃の機を狙っていたのだが、熊本は後半6、10分の好機を鋭い切りこみで活かし6—3、ここが岐れ目になった。

国分実業 6（4—3、2—1）4 清水市商

清水は後半6分4—4のタイとしたが、国分はそのあと東木の得点で再び引きはなし、守っても当りの早さで清水に反撃の糸口を与えなかった。熱のこもった一戦。

涌谷 11（5—3、6—1）4 新居浜商

前半の試合ぶりではどちらがと云えなかったが、後半になると総合力の差をのぞかせた涌谷がしだいに点差を拡げた。新居浜は守りが荒くそれが失点につながった。

水海道二（抽せん勝ち）9（3—4、5—4、…、1—1、0—0）9 有磯

引き分け

水海道有利の展開から有磯が追いつき、最後までもつれあったまま。ともに勝ちこし機はあったのだが決め手に欠け、特に有磯にとっては無念さが残ろう。

昭和学院 11（6—2、5—5）7 神埼農

前半のリードを守り切る——今年は比較的こういうパターンが多い。昭和はソツなくあげた前半の得点を、GK阿久根の好守などで支え、神埼を振りはなした。

大分東 23（12—2、11—4）6 県岐阜商

岐阜がせりあったのは前半5分1—3まで。あとは大分の理詰めの攻めに追いまくられ防戦一方。

それでも最後まで試合を捨てぬ頑張りに1年間の努力の跡をみた。

涌谷、一瞬をつかれる

市邨は日川押し切る

▽準々決勝

市邨学園 10（6—0、4—4）4 日川

得	【市邨】		【日川】	得
0	井上	GK	金子	0
0	潮		豊角	0
1	蟹江	FP（審・中山 田嶋）	斉藤	1
1	正治		尾形	0
0	太田		古屋	0
7	辻本		広瀬和	0
0	矢田浦		広瀬佳	0
0	今里		石原は	3
1	山本		中村	0
0	稲垣		石原由	0
0	服部		梅本	0
0	竹内		小宮山	0
10（4）		PT		（2）4

市邨は日川のパスミス、シュートミスに乗じて16分6—0。後半も5分までに2点を加えて試合の興味をうすらさせた。日川は前日みせた迫力もなく期待はずれ。

熊本女商 11（6—1、5—2）3 国分実業

得	【熊本】		【国分】	得
0	丸山	GK	和田	0
0	井村		造田	0
3	上部	FP（審・新井 幸田）	餅田	0
1	藤本		内村	0
1	平野		万膳	0
3	桑原		川村	2
0	松岡		東木	0
3	福永		福元	0
0	岡本		中原	1
0	千原		上薗	0
0	橋本		田中	0
0	曽根		池田	0
11（2）		PT		（0）3

守りの差がスコアになった。国分はいい形になりながらも熊本ディフェンスを突き切れず、一方熊本は、ポストプレーとロングでゆさぶり、ポイントをかせぎ続けた

水海道二 7（3—3、4—0）3 涌谷

得	【水二】		【涌谷】	得
0	坂巻	GK	佐々木	0
0	小貫久		中沢	0
1	渡辺	FP（審・柳井 岡村）	大町	0
0	飯田		宮本	1
3	染谷		後藤	0
0	小貫千		木下	0
3	菅谷		小笠原	1
0	柴		鈴木	0
0	武蔵		高橋	1
0	小林		堀野	0
0	小島		広瀬	0
0	佐藤		村上	0
7（0）		PT		（1）3

勝負をかけた後半、水海道は4分から6分30秒までに3点をあげこのリードを利かして勝った。

涌谷にしてみれば、不覚の2分半であり、悔やまれる一瞬だった。

大分東 15（8—3、7—3）6 昭和学院

昭和は、途中、成田を負傷で欠いたこともあり勝機というものがほとんどなかった。それほど、大分の攻守は完ぺきに近く、基本技術の尊さを改めて知らせた。

女子歴代優勝校

回	年	校名	県
①	昭25	操山	（岡山）
②		倉敷青陵	（岡山）
③		寝屋川	（大阪）
④		稲沢	（愛知）
⑤		寝屋川	
⑥		明善	（福岡）
⑦		寝屋川	
⑧		水海道二	（茨城）
		～以上11人制～	
⑨	昭32	寝屋川／熊本市立	（熊本）
⑩		熊本市立	
⑪		熊本市立	
⑫		半田	（愛知）
⑬		静岡城北	（静岡）
⑭		静岡城北	
⑮		栃木女	（栃木）
⑯		静岡城北	
⑰		秋田和洋女	（秋田）
⑱		花巻南	（岩手）
⑲		菊池農	（熊本）
⑳		新居浜商	（愛媛）
㉑		水海道二	
㉒		山陽女	（広島）
㉓		深谷女	（埼玉）
㉔		小松市女	（石川）
㉕		大谷	（大阪）
㉖		小松市女	
㉗	昭51	大分東	（大分）

得	【大分】		【昭和】	得
0	大平	GK	阿久根	0
0	川津			
1	北山	FP	染谷	0
3	菅本豊	（審・丸岡・井上）	嘉悦	0
1	穴見		大羽	1
0	松岡		鈴木	1
1	那須		中野	0
5	菅本清		成田	3
2	姫野		湯浅	1
2	大戸井		井上	0
0	上野		沢口	0
0	藤沢		浜中	0
15	(1)	PT	(2)	6

九州勢、力強さを示す

市邨、水海道健闘及ばず

▽準決勝

熊本女商 12（6−2, 6−2）4 市邨学園

得	【熊本】		【市邨】	得
0	丸山	GK	井上	0
0	井村		潮	0
4	上蔀	FP	蟹江	0
2	藤本	（審・日野・石切山）	正治	0
1	平野		太田	1
3	桑原		辻本	1
0	松岡		矢田浦	0
2	福永		今里	1
0	岡本		山本	1
0	千原		稲垣	0
0	橋本		服部	0
0	曽根		竹内	0
12	(0)	PT	(0)	4

スタートのせりあいも束のま、すぐ熊本が主導権を握った。走りの差によるもので、市邨はここでなんとか踏みこたえるべきだった。

後半、市邨はいちど反撃の気勢を示したが、大勢には響かず熊本の完勝を許した。（丸岡）

大分東 10（4−2, 6−2）4 水海道二

セットの水海道が巧く先行、もつれた様相だったが、力に優る大分は15分すぎあっさり逆転、その好調を後半はじめにも持ちこんで4分7−2。水海道はそのあと2点を返したものの、大分は姫野の3点連取で突き放した。（大塚）

得	【大分】		【水二】	得
0	大平	GK	坂巻	0
0	川津		小貫久	0
0	北山	FP	渡辺	1
1	菅本豊	（審・田嶋・中山）	飯田	1
0	穴見		染谷	0
0	松岡		小貫千	1
3	那須		菅谷	0
1	菅本清		柴	0
5	姫野		武蔵	0
0	大戸井		小林	1
0	上野		小島	0
0	藤沢			
10	(0)	PT	(0)	4

熊本、追撃するも及ばず

▽決勝

大分東 9（5−2, 4−3）5 熊本女商

得	【大分】		【熊本】	得
0	大平	GK	丸山	0
0	川津		井村	0
0	北山	FP	上蔀	2
2	菅本豊	（審・中山・田嶋）	藤本	2
0	穴見		平野	0
0	松岡		桑原	1
3	那須		松岡	0
4	菅本清		福永	0
0	姫野		岡本	0
0	大戸井		千原	0
0	上野		橋本	0
0	藤沢		曽根	0
9	(0)	PT	(0)	5

速攻を身上とする両者。熊本は相手のエース菅本豊(左腕)に松岡を密着させ、この策戦が奏効、大分はめずらしく攻撃の歯車が合わなかった。

熊本は4、10分上蔀のゴールで2−0とし上々のスタード、だったわけだが、大分は11分FTから菅本豊が初得点してにわかに活気づき、13分ポストから那須で同点16分速攻で菅本清が逆転したあとさらに2点を加えた。このたたみかけは、強いの一語につきる。

しかし、熊本も負けてはいない。後半1分桑原、3分藤本で4−5と詰め、盛りあげた。

大分は、このあとのピンチをGK大平の美技で切り抜け、7分菅本豊、8分那須が得点、7−4としたのが大きい。

熊本もなんとかと粘るが、大分の守りは乱れをみせず、ついに全試合失点を6以下におさえるという抜群の切れ味をみせて、栄冠を手中にした。

熊本の健闘で、すがすがしい印象を与えるフィナーレとなった。（大塚）

大分東、みごとな勝利

男子はまたも勝てず

日韓高校

【速報】第10回（女子第3回）日韓高校スポーツ交歓競技会の一つとして、今年の韓国高校選手権優勝校男・高麗（ソウル）女・忠州女商（忠州）の両校を迎えて、8月21、23の両日東京千蔵烏山の佼成学園女子高校体育館で行われた。

東京代表、押しまくられる

第1日(21日)、日本側は東京都代表が対戦、韓国勢は男女とも圧倒的な力を発揮して勝利を飾った。

▽男子

高麗（韓国）19（11−1, 8−7）8 日体荏原（日本・東京）

▽女子

忠州女商（韓国）19（8−2, 11−3）5 藤村女（日本・東京）

(注)忠州はほかにGK金令子（155cm）が来日。

FPの李京姫は昨春の世界女子選手権予選に出場した韓国ナショナルの一員。

得	【高(麗身長)】		【日体】	得
0	李 仁澈・178	GK	野村	0
			金石	0
5	林 英喆・172	FP	阿部	0
2	李 泳朝・176	（審・岡前・佐野）	田中信	2
0	姜 徳寿・174		田中悟	1
0	張 来京・172		上野	0
2	安 孝南・177		荒井	3
5	林 然徳・178		小倉	2
5	安 熙喆・173		竹末	0
0	林 明吉・173		岡部	0
0	姜 基変・174		石毛	0
0	金 永変・168		田中	0
19	(5)	PT	(0)	8

得	【忠州女商】		【藤村】	得
0	朴英淑・162	GK	桑田	0
0	李撥子・163		渡辺	0
3	李明淑・164	FP	清水	0
9	李京姫・168	（審・近藤・大塚）	角田	0
2	張順福・160		菱山	1
1	洪承玉・162		神野	0
2	禹相順・161		三村	2
0	劉善鎬・160		中田	2
2	洪京淑・165		佐藤	0
0	宋南庸・158		日高	0
0	鄭雲山・156		伊藤	0
			青木	0
19	(1)	PT	(0)	5

下関中央工惜しくも敗る

第2日、日本側は第27回全日本高校選手権(氷見)で優勝した男・下関中央工(山口)と、女・大分東の両校が出場、日韓両高校チャンピオンの対戦は、会場へ詰めかけた高校生たちを沸かせた。

▽男子

高麗 16（10−6, 6−8）14 下関中央工（日本・山口）

得	【高麗】		【下関】	得
0	李(仁)	GK	井本	0
			久保	0
6	林(英)	FP	飯山	2
2	李(泳)	（審・岡前・佐野）	島中	4
2	姜(徳)		溝部	3
0	張		篠田	3
1	安(孝)		東	1
5	林(然)		林	1
0	安(熙)		岸野	0
0	林(明)		松川	0
0	姜(基)		浜本	0
0	金		河村	0
16	(2)	PT	(2)	14

▽女子

大分東（日本・大分）15（8−4, 7−6）10 忠州女商

得	【大分】		【忠州】	得
0	大平	GK	金	0
0	川野		朴	0
2	北山	FP	李(明)	3
5	菅本豊	（審・大塚・近藤）	李(京)	7
0	穴美		張	0
0	松岡		洪(承)	0
4	那須		禹	0
4	菅本清		劉	0
0	姫野		洪(京)	0
0	大土井		宋	0
0	上野		鄭	0
0	藤沢			
15	(2)	PT	(1)	10

（各試合の後記などは次号に掲載）

ブロック高校選手権

涌谷、第2延長で和洋制す

第29回東北高校選手権は7月2日から4日までの3日間、岩手・花巻市民体育館と花巻農高体育館に男女各12校が参加して開かれた。

男子は各県とも新鋭の進出が目立ち波乱ぶくみだったが、準決勝の大激戦を乗り切った仙台育英（宮城）と青森商（青森）の優勝争いとなり仙台育英が4年ぶり2度目の栄冠を飾った。

女子は宿敵同士の涌谷(宮城)と秋田和洋女(秋田)の決勝から、まれにみる激戦の末、涌谷が第2延長前半にあげた1点を守り、2年連続17度目の優勝を遂げた。

宮城の男女制覇は11年ぶり7度目のこと。

▽男子1回戦

真室川（山形）8（3－2、3－6）6 大曲（秋田）
盛岡商（岩手）11（4－5、3－6）7 三本木（青森）
青森商（青森）16（6－8、6－8）12 安積（福島）
盛岡一（岩手）18（3－10、3－8）6 仙台三（宮城）

▽同準々決勝

学法石川（福島）21（3－11、6－10）9 真室川
仙台育英（宮城）15（8－6、5－9）13 盛岡商
青森商 11（2－6、3－5）5 大石田（山形）
盛岡一 9（3－5、5－4）8 大曲農（秋田）

▽同準決勝

仙台育英 15（5－3、4－6／1－1、1－1／0－3、3－1）14 学法石川
青森商 12（2－5、9－7）11 盛岡一

▽同決勝

仙台育英 13（2－6、3－7）5 青森商

▽女子1回戦

緑ケ丘（福島）12（3－10、5－2）8 大曲農（秋田）
米沢女（山形）7（3－2、3－5）6 花巻南（岩手）
古川女（宮城）10（1－2、1－8）2 七戸（青森）
福島女（福島）6（1－3、2－3）3 竹田女（山形）

▽同準々決勝

涌谷（宮城）16（1－10、3－6）4 緑ケ丘
青森西（青森）10（5－5、1－5）6 米沢女
盛岡二（岩手）10（1－5、5－5）6 古川女
和洋女（秋田）5（3－4、1－1）4 福島女

▽同準決勝

涌谷 5（1－3、2－2）3 青森西
秋田和洋女 5（2－2、2－3）4 盛岡二

▽同決勝

涌谷 7（3－3、2－2／1－1、0－0／1－0、0－0）6 秋田和洋女

男・久留米工大付
女・大分東

熱戦の九州高校

第26回全九州高校選手権は7月22、23の両日熊本女子商高球技場に、男子16、女子16校が参加、トーナメントで行われた。

男子は、ベストフォアを福岡、熊本勢が二校づつで分けあったが決勝は久留米工大付×小倉工の福岡同士の争いとなり、前半優位に立った久留米が押し切った。

女子は予想どおり大分東が圧倒的な強さを示し、4試合を得点66失点26という好スコアで乗り切り文句ない優勝を遂げた。

久留米工大付は初、大分東の優勝は2年連続3度目である。

▽男子1回戦

久留米付（福）21－8 熊本市商（熊）
大分東（大）14－6 隼人工（鹿）
熊本市立（熊）14－7 延岡（宮）
佐世保西（長）21（延）17 神埼農（佐）
興南（沖）18－15 大分電波（大）
小倉工（福）21－12 佐賀農（佐）
都城工（宮）13－12 財部（鹿）
熊本一工（熊）22－9 口加（長）

▽同準々決勝

久留米工大付 9（4－6、5－2）8 大分東
熊本市立 15（7－4、8－3）7 佐世保西
小倉工 22（9－7、13－5）12 興南
熊本一工 27（12－10、15－3）13 都城工

▽同準決勝

久留米工大付 20（8－5、12－5）10 熊本市立
小倉工 20（11－4、9－10）14 熊本一工

▽同3位決定戦

熊本一工 21（9－2、12－7）9 熊本市立

▽同決勝

久留米工大付 15（8－3、7－5）8 小倉工

▽女子1回戦

熊本市立（熊）11－3 佐世保商（長）
大分東（大）15－3 浮羽
国分実業（鹿）11－2 西都商（宮）
神埼農（佐）14－5 水俣（熊）
熊本女商（熊）19－4 川内商工（鹿）
別府青山（大）10（延）9 小林商（宮）
興南（沖）8－7 島原農（長）
筑紫女（福）10（延）8 佐賀女（佐）

▽同準々決勝

大分東 13（5－0、8－5）5 熊本市立
神埼農 5（1－2、4－2）4 国分東
熊本女商 16（11－4、5－2）6 別府青山
筑紫女 10（6－2、4－2）4 興南

▽同準決勝

大分東 19（6－5、13－4）9 神埼農
熊本女商 5（3－1、2－0）1 筑紫女

▽同3位決定戦

神埼農 12（6－5、6－4）9 筑紫女

▽同決勝

大分東 19（11－3、8－6）9 熊本女商

四国は新居浜勢

四国高校選手権は徳島で行われ、男子は新居浜工、女子は新居浜市商の愛媛勢が優勝を飾った。

ブロック高専大会

◇第2回東北地区高専大会（7月 一関）

▽リーグ戦

宮城高専 6（1－4、5－1）5 秋田高専
一関高専（岩手）22（8－4、14－3）7 秋田高専
一関高専 19（10－2、9－3）5 宮城高専

◇中国地区高専大会（7月・松江）

宇部高専（山口）12（7－5、5－5）10 津山高専（岡山）
呉高専（広島）21（12－4、9－6）10 米子高専（鳥取）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

株式会社　東口電機製作所
社長　東口武雄
奈良市二名町2603
TEL　0742—44—6161

中川石油株式会社
取締役社長　中川米治
〒020　盛岡市菜園1丁目7番17号
電話（0196）23—(代)3241

医薬品並に健康関連総合商社
（株）小田島
本社　花巻市上町6—5　〒025 TEL01982-3-5162(代)
営業所　花巻，盛岡，水沢，一関，大船渡，釜石，宮古，久慈，青森，八戸，弘前，むつ，仙台，石巻，古川，気仙沼，秋田，大館，横手

総合ファッションメーカー
株式会社　ワコール
取締役社長　塚本幸一
東京・大阪・京都・名古屋・福岡・札幌

コロナとマークⅡの
岩手トヨペット
本社　盛岡市上田2丁目　TEL(51)3211（代）

株式会社　久保田鉄工
代表者　久保田　広一
八尾市南本町四丁目九番一九号
TEL0729—23—0292

千葉県ハンドボール協会
会長　浮谷貞雄

東海溶材株式会社
本　社　清水市北脇242
支　店　浜松市下石田町1743の1
営業所　小山，東京，相模原，三島，富士，三保，焼津，大井川，掛川，豊田，名古屋，四日市，大阪，富山，広島

株式会社　横山商店
横山　豊
（第3回インターハイ準優勝清水商高主将）
清水市渋川468　TEL0543—45—3482

アサヒスポーツ
福井市松本3丁目4—2
TEL　0776—23—2555

広島県ハンドボール協会長
川上病院
広島市曙町2～33
TEL0822—61—3782

富士重工指定スバルサービス工場
（有）野田商会
野田　勉
（第9回インターハイ優勝清水商高選手）
清水市万世町1丁目69　TEL0542—52—6750(代)

学生衣料製造卸
株式会社　島屋
高岡市問屋町41

北陸電力株式会社
福井支店
福井市日之出1丁目4番1号 〒910
電話（0776）㉓1212番（代表）

屋内外電気工事設計施工
火災報知機設備施工
伊藤電機設備株式会社
代表取締役　伊藤仁和
福井市順化2丁目2番1号 〒910
TEL 営業部(0776)22-7800(代) 工事部21-2266(代)

ヨーロッパの味
タキザワハム
取締役社長　滝沢　武

ブリヂストンタイヤ(株)彦根工場
〒522-02
滋賀県彦根市高宮町211番地
TEL (07492) 2-8111 代表

不動産の　カントラ　大阪・堺
TEL　0722—33—0003
0722—22—2103
フドウサン

▽夏の3全国大会速報

（詳報次号）

大阪イーグルス6連勝

全日本教職員

第19回全日本教職員選手権は8月9日から12日まで青森県野辺地町の県立野辺地高グランドを主会場にして、27都道府県から40チームが参加、行われた。

日本リーグ入りを決めたナンバー・ワン大阪イーグルスは、各チームの目標にされながら、今年も巧みな試合展開で勝ち進み、2年ぶりで2度目の決勝へ勝ちあがった茨城教員との優勝争いも、前半なかばから主導権を握って制勝、史上初の6連勝、通算11度目の優勝を飾った。

ベテランを集め前年2位となって話題となったオールド・イーグルス（大阪）は3回戦で静岡教員団に押し切られた。

4回目を迎えた女子は5チームが参加、4連勝確実とみられた大阪教員が2回戦（準決勝）で、岩手教員にせり負ける波乱となり、余勢をかった岩手が、みごとに初優勝を遂げた。

（大会の詳報は次号に掲載します）

▽男子1回戦勝者　岐阜教員、千葉教員、栃木教員、福島教員、埼玉フェニックス、山梨教員、若楠（佐賀）、岩手教員ク

▽同2回戦勝者　大阪イーグルス、埼玉教員ク、三重教員団、千葉教員、栃木教員、新潟教員、スワロー兵庫、愛知教員、大阪教員、茨城教員、ロイヤルスワロー（兵庫）、宮崎教員、若楠、宮城教員、静岡県教員団、オールドイーグルス（大阪）

▽同3回戦勝者　大阪イーグルス、千葉教員、栃木教員、スワロー兵庫、茨城教員、ロイヤルスワロー、若楠、静岡県教員団

▽同準々決勝

大阪イーグルス 11―9 千葉教員

スワロー兵庫 18―12 栃木教員

茨城教員 38―7 ロイヤルスワロー

若　楠 22―15 静岡教員団

▽同準決勝

大阪イーグルス 11（5―5、6―2）7 スワロー兵庫

茨城教員 23（7―7、16―6）13 若　楠

▽同3位決定戦

スワロー兵庫 19（10―12、9―3）15 若　楠

▽同決勝

大阪イーグルス 23（9―6、14―5）11 茨城教員

▽女子1回戦（1試合）

岩手教員 16（8―3、8―2）5 岐阜教員

▽同準決勝

岩手教員 14（8―5、6―3）8 大阪教員

愛知教員 16（8―1、8―3）4 芙蓉ク（兵庫）

▽同3位決定戦

大阪教員 20（9―0、11―1）1 芙蓉ク

▽同決勝

岩手教員 10（3―3、7―3）6 愛知教員

生駒と氷川勝つ

全国中学生

第5回全国中学生大会は8月16、17の両日大阪市中央体育館に全国各ブロックと開催地の推せんをうけた男女各16チームが参加、熱戦をくりひろげ、男子は近畿同士の決勝から生駒中（奈良）が、大激戦の末に岩倉中（和歌山）を破り初優勝。

女子は、今年も熊本勢が強く、同県同士の決勝から氷川中クが宇土鶴城クに九州大会（7月）の雪じょくを遂げて初優勝を飾った。

（大会の詳報は次号に掲載します）

▽男子1回戦勝者　氷見西（富山）、下松（山口）、岩倉（和歌山）、生駒（奈良）、マリスト（熊本）、茨木ク（大阪）、廿日市・呉選抜（広島）昭島スポーツ少年団（東京）

▽同準々決勝勝者　氷見西、岩倉、生駒、茨木ク

▽同準決勝

岩　倉 13―11 氷見西

生　駒 12―5 茨木ク

▽同決勝

生　駒 13（6―4、7―8）12 岩　倉

▽女子1回戦勝者　小川（福島）、大平（栃木）、氷川中ク（熊本）、名塚（愛知）、宇土鶴城ク（熊本）、長森ク（岐阜）、徳山住吉（山口）、彦根西（滋賀）

▽同準々決勝勝者、宇土鶴城ク、徳山住吉、氷川中ク、大平

▽同準決勝

宇土鶴城ク 10（延）7 徳山住吉

氷川中ク 11―7 大　平

▽同決勝

氷川中ク 12（6―3、6―5）8 宇土鶴城ク

一関高専が初優勝

全国高専選手権

第3回全国高専選手権は8月23、24日の両日、新潟県・柏崎工高グランドで、各ブロック大会から選ばれた16校によって行われた。

各校ともレベルアップが著しく好内容となったが、決勝は前回と同じ大阪府立高専×一関高専（岩手）の顔合わせから一関が前半で優位に立ち、昨年の雪じょくを遂げるとともに初優勝を飾った。

（大会の詳報は次号に掲載します）

▽準決勝

府立大阪高専 12―11 長岡高専

一関高専 14―11 宇部高専

▽決勝

一関高専 21（10―5、11―8）13 府立大阪高専

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

大阪体大が6連勝

～西日本学生選手権～

女子は武庫川女の連続

第16回（女子第7回）西日本学生選手権大会は8月2日から4日までの3日間、京都市立体育館、京都府立体育館に男子16（関西10、東海4、中四国1、九州1）、女子8（関西4、東海3、中四国1）が参加して行われ、男子は大阪体大が6連勝、女子は武庫川女大が2連勝といずれも関西春の優勝校がタイトルを握った。

▽男子1回戦

大阪体大（関西）38（18－1　20－3）4 甲南（関西）
同志社（関西）14（7－6　7－5）11 愛知教大（東海）
中京（東海）23（12－4　11－3）7 立命館（京都）
大阪経大（関西）34（24－7　10－4）11 天理（関西）
名城（東海）棄権 追手門学院（関西）
近畿大（関西）19（8－1　11－5）6 山口大（中四国）
関大（関西）15（7－9　8－4）13 愛知教大（東海）
京都産大（関西）20（7－9　13－5）14 九州産大（九州）

○……注目の京産大×九産大は、前半京産大の攻撃が冴えて一方的な経過、後半、九産大も元気をとり戻したが大勢をくつがえすには遠かった。このほかの試合は同志社が愛知教大にてこずった程度で有力校が順当勝ちした。

▽同準々決勝

大阪体大 20（10－7　10－2）9 同志社
中京 15（9－4　6－8）12 大阪経大
名城 14（7－4　7－3）7 近畿大
京都産大 25（13－3　12－6）9 関大

○……中京×大経大戦は熱がこもった。後手に廻っていた中京は後半5分9－9に追いつき、そのあと宮尾の連続得点で初の先行、15分いちど同点にされたが、終盤再び宮尾の活躍で大経大を振り切った。

大経大は後半16分以降無得点という貧攻が敗因。

▽同準決勝

大阪体大 19（9－5　10－4）9 中京

○……大体大×中京は、大体大が出足よく15分までに6点を連取、あっさり主導権を握った。

【中京】	得		【大体】	得
川上	0	GK	松岡	0
原	0	GK	青木	0
宮尾	4	FP	西上	5
中野	0	FP	佐々木	0
安藤	2	FP	丸井	4
吉本	1	FP	能波	4
西山	1	FP	北川	3
森谷	0	FP	崎野	2
木戸	0	FP	大屋	1
福井	1	FP	島中	0
坂口	0	FP	門河	0
大畑	0	FP	前田	0

（審・岩成、大羽）

19（2）PT（1）9

名城 18（12－7　6－3）10 京都産大

【京産】	得		【名城】	得
清水守	0	GK	木村	0
松村	0	GK	松井	0
西田	0	FP	西尾	0
浅田	0	FP	高橋	7
寺岡	0	FP	西浜	0
生駒	7	FP	谷元	4
北野	0	FP	山下	0
木村	1	FP	鈴木康	4
蔵本	1	FP	鈴木輝	3
松井	0	FP	安藤	0
田中	1	FP	瀬島	0
林	0	FP	小林	0

（審・西沢、福井）

18（2）PT（4）10

名城×京産大は、名城が巧い試合運びでたえず先行、京産大は相手の執ような当りにあって動きを封じこめられたままで終った。

▽同3位決定戦

京都産大 12（5－3　7－7）10 中京

▽同決勝

大阪体大 19（13－4　6－7）11 名城

【名城】	得		【大体】	得
木村	0	GK	松岡	0
松井	0	GK	青木	0
鈴木輝	0	FP	西上	5
江崎	0	FP	佐々木	2
鈴木康	3	FP	丸井	3
谷元	1	FP	能波	3
西浜	0	FP	北川	4
高橋	4	FP	崎野	2
西尾	0	FP	大屋	0
安藤	3	FP	島中	0
瀬島	0	FP	稲田	0
小林	0	FP	門河	0

（審・山本、藤本）

19（1）PT（0）11

○……春の優勝校同士。名城は前半20分4－5から連続3点をあげて逆転、好ペースとなった。

しかし、大体大は後半6分8－8としてから逆にのびのびとした試合ぶりで、そのあと一気に5点13－7とし、15分1点を返されたが、すぐに3点をつみ重ねて勝利を動かないものとした。

大阪体大、中京に逆転勝ち

▽女子準々決勝（＝1回戦）

武庫川女（関西）18（11－2　7－1）3 成蹊女短（関西）
愛知教大（東海）19（8－5　11－2）7 関大（関西）
中京女（東海）20（9－3　11－2）5 山口大（中四国）
大阪体大（関西）12（8－4　4－7）11 中京（東海）

▽同準決勝

武庫川女 18（10－5　8－3）8 愛知教大
大阪体大 19（9－5　10－4）9 中京女

▽同3位決定戦

中京女 11（6－6　5－2）8 愛知教大

【愛知】	得		【中女】	得
村瀬	0	GK	森下	0
		GK	多田	0
鈴木	1	FP	立川	4
藤井	3	FP	太田	3
犬塚	3	FP	青木	0
加藤葉	0	FP	鈴木	3
籔	0	FP	松下	0
柿間	1	FP	萬野	0
井上	0	FP	野々宮	1
加藤仁	0	FP	山田	0
大野	0	FP		
田部	0	FP		

（審・福井、西沢）

11（1）PT（0）8

▽同決勝

武庫川女 7（3－2　4－4）6 大阪体大

○……予想どおり宿敵同士の対決となり、武庫川女がタイムアップ1分前、速攻から今井が貴重な決勝点をあげ、激戦を飾った。

【大体】	得		【武庫】	得
滝本	0	GK	六車	0
柴田	0	GK	西川	0
船橋	0	FP	小西	0
青木	0	FP	鐘ケ江	0
加藤	0	FP	佐野	0
平山	1	FP	恒川	0
松本	1	FP	福島	0
中津	0	FP	谷	1
大竹	1	FP	榎崎	1
浅井	0	FP	今井	4
田辺	3	FP	坂本	0
岡田	0	FP	赤松	1

（審・小西、西沢）

7（3）PT（0）6

大体大は前半3－1の優位を二本のPTで追いつかれ、後半も18分まで6－5と先行しながらPTでタイにされるなど、粗い守りが響いた。

一方的な経過の多い試合の中で見応えがあったのは1回戦の大体大×中京。

大体大は後半10分まで芦野・今木を中心とした中京攻撃陣に6－9と押されていたが、守りの立直りとともに反撃をみせ大竹、松本らの活躍で逆転、21分同点にされたものの、22分平山のゴールで決勝点を握った。

金沢で学生東西対抗

第26回（女子第8回）全日本学生選抜東西対抗が、9月12日午後1時30分から北信越学連の主管によって石川県体育館で行われる。

この大会がいわゆる地方で開かれるのは初めてのこと。女子の試合が午後2時、男子が3時30分の予定。

西敏郎氏を悼む



６月29日永眠された西敏郎氏（日本協会副会長，全日本学連会長，関東学連会長）は，生涯をハンドボールの発展にかけた情熱の人，闘志の人だった。58才，慶大出。
ゆかりの深かったかたがたに寄稿願い追悼特集とした。

日本協会々長
田村　正衛

西さんと私との出会いは勿論ハンドボールが縁です。

西さんが日本協会の副会長になられて間もなくでした。一日、私の自宅を訪ねてくだされ夜更けまでじっくりお話しを承ったことがあります。ハンドボール界の過去現在から未来への夢を熱っぽく繰返し繰返し話しておられました。

ミュンヘンオリンピックにご一緒した時は確かガン病との第一期をおえてご退院中で、其後また第二期を迎えられたのですが其の間の安定期だったかと思います。でも已に視力の方が少々ご不自由であったようです。がそれを人には悟られまいと日々平生に振舞うご努力を続けておられました。その気迫からか私共はいたいたしさなど微塵も感じませんでした。

最後にお会いしたのはこの六月十九日でした。林副会長と荒川理事長に私の三人で病院へお見舞いに上ったのです。が、残念その時は已に全くの昏睡状態のお姿で私共はただ黙って静かにご平癒をお祈りして帰るよりよしなき次第でした。本当に惜しい方を失いました。

西さんのような根っからのハンドボールマンこそこれからの協会をと私は心ひそかに思っていたのです。誠に残念でなりません。

日本協会副会長
徳永　陸繁

球友よ、今だに信じられない。

過日不調に陥られたとの報に接し大変驚き、ひたすら御身を案じご回復を祈願しておりましたのに、病魔は冷酷にもかけがえない人の生命を奪ってしまったのです。共に学生時代よりハンドボール競技で鍛えた身体と精神で、若い人達に伍して行けると信じておりましたのに……。

西君は終戦後の我が国ハンドボール競技再建の原動力として又共に副会長としての重大使命を持って、協会の運営に献身的な努力をなされた。唯一の球友でもありました。特に残された数々の業績の中でも、全日本学連の長として常にリーダーシップを取り、競技を通じその真理を追究し今日の学連のめざましい発展を成し遂げたことは高く評価されております。激しい気性ではありましたが、その心の底に常に深い思いやりと愛情を持った心のやさしい方であり、このことは彼に接した多くの人達が共に感ずるところでありましょう。誠に彼を亡くしたことは残念でなりません。今後は私達全員が西君の遺志を継ぎ協力して、ハンドボール競技の発展に尽すことこそ、その霊をおなぐさめする唯一の道であると信じております。お会いするごとに交した、学生時代の思い出話しも既にその機会もなく、幽冥境を異にした西君にかける言葉もありませんが、その深い刻のある人間味はことさら強く感じられますと共に、西君とは奥様が南米ペルーの小学校の後輩であった関係上、私的にも何かと親しいお付合いをさせていただきましたが、八年の永きにわたる闘病生活に対して示されたご家族の深い愛情や会議に付添われた奥様の態度より拝察して一層強く感じることができます。

終りに故西君のご冥福をお祈りいたしますと共にご家族の皆様がこの深い悲しみを乗り越えて躍進することを確信いたします。

（日体ＯＢ）

全日本教職員連会長
山田　計

西敏郎君とは昭和十四年大学時代に知りあい、以後全日本や関東学生リーグなどの試合で常に好敵手として相まみえた仲であった。

その当時から彼は、私に口ぐせのように全力を尽して戦えば必ず目的に近づく事が出来るといっていたものだ。それというのも私達と試合を行なって勝つ事が出来なかった事に基因する様で彼の気の強い一面がよく出ていた。その反面、彼の母校である慶応のチームメートを悪いとか弱いとかを言わず自分一人の力が及ばず負けたといっていたのも印象に残っている。常に練習で泣きそして試合で笑える様になれということを彼ほど示した男もいない。彼が昭和二十八年に日本ハンドボール協会理事長になった時今何んとかしなければ他協会より立ちおくれる、大いに協力して欲しいと相談をもちかけられた時などは彼の情熱の程がうかがわれた。その後、全日本学連会長として大阪へ来られた時にはよく杯をかたむけ、将来のハンドボール界について時のすぎるのも忘れて話し合った事がつい昨日の様に思われる。

その時、彼の強い実行力と精神力に改めて感激させられた。五十八年間の生涯であったが病後も代議員会などに出席、ハンドボールへのなみなみならぬ愛着を知らされたものである。

西君、安らかにねむりたまへ。茲につつしみて追悼の言葉と致します。

合掌。（日体ＯＢ）

全日本学連会長代行
藤松　博

覚悟はしていたものの、西会長の訃報は、私にとって大きなショックとなった。病状悪化の報で再三見舞にあがったときの顔と、元気で誰はばかることなく悪口雑言をはいておられた顔とがダブッて脳裏を走った。

五年程前になろうか、会長が最も大切にしておられた「日韓学生交流」で日本チームが渡韓した際約十日間宿舎で御一緒する機会があった。三田(慶大)ＯＢ、日本協会創始期のメンバーとしての会長については良く知っていた。でも

内側の西さんについては全く知らない面が多かった。
　すごく神経質で家族おもいの面があり、豪放活撻にみえて、シーツのシワが気になって眠られない程のデリカシーを持った人だった。
　思えば、その頃はすでに病魔に襲われておられたが、奇跡的に小康を得ていた時期だった様に想う滞在中、毎日の様にハンドボールを語り、学連の、日本協会のあるべき姿を熱っぽく語られました。そしてその情熱は他に類を見ない程すざましかった。その姿勢は再入院をし病状が悪化し、意識が混濁しても変らなかった。その意味ではハンドボールの鬼であり、西さんの総てがハンドボールであった様に思う。
　滞韓中のある日、街で逢った一人の青年（美術学校生）と話し合っている間に突然西さんが青年をどなりつけているのを見て驚いた説明によれば、その青年が教養もあり、経済的にも決して貧しくもないのに、日本人である西さんに卑屈な態度をみせたのにごうをにやしたとの事でした。若者をこよなく愛し、学生の大好きだった西さんにとって、国籍を離れて、青年のあるべき姿を説いでおられた西さんを想い出す。学連関係者は

先輩よ、安らかに

島田清史（慶大OB）

　西さんを病床にお見舞に伺い始めたのは今から三、四年前、丁度眼の手術をされて原宿の井上病院に居られた頃でした。
「俺は腫瘍だ。今の医学では絶体癒らない。新薬が出来るまで生き延びるしかない。それにはどんな努力でして何年でも生き延びる。」
　また「手術の前になると医者や看護婦は食べて体力をつけろ、とうるさくて仕様がない。俺は慶応のハンドボールの選手だった、試合（手術）当日迄に体調をベストに持っていくのは当然で馴れている。馬鹿にしてるよなー。お島」
　等々その生に対する真摯な態度と病に対する不倒不屈な精神には唯々圧倒され、頭の下がる思いがしました。
　また、後輩がついうっかりバラの花を持って見舞に行った事がありました。「なあーお島、俺が眼が見えないのは皆わかっているんだけど、鼻も効かないのはあまりわかってないんだ。西さんバラですよ。いい匂いでしょう。といわれてうんとてもいい匂いだよといっちゃったんだ。何も匂わないけれど嬉しくてね。」三田ハンドボールクラブの連中にはあんなオッカナイ先輩は二人と居なかったんではなかったでしょうか。負ければ頭から怒鳴りつけられ、もうお前等の面倒は見ないと突放されるそんな西さんだけどその反面、後輩の気付かぬ見舞にも優しく配慮される心優しさが一杯ありました
　ハンドボールに関しては日本中否世界中のハンドボール人間がその業績に感謝し讃え、そしてその死を悼みましょう。
　慶応は残念ながら昭和16、17、18年の西さんを頂点とするいわゆる黄金時代より此方まだ一回も優勝しておりません。
　後を嗣ぐ私どもとしては今秋、来春と優勝を続けることを先輩の霊前に誓って実行することが、今までの御恩に報いることだと思います。
　私個人としては二度と得難い先輩であり仲間であった西さんを喪ったことが残念であり、悲しくて仕様がありません。

増田一郎（慶大OB）

　戦後、学生ハンドボールリーグが復活したときから西先輩の口ぐせになっていたのが、オリンピックへの参加であった。このためには、学生ハンドボールの強化拡充を念願していたと思う。戦前のスタープレイヤーが、戦後は監督として後輩を長い間指導してきたが初期の時代、創意工夫した練習方法、豊富な練習量とともに、現代に生かされている基本である。西先輩はこれを実行に移したものの、当時は部員も少なく、はげしい練習にへこたれがちで、慶応のリーグ戦の結果はいつも不本意なものに終った。26年の秋の関東大学リーグ戦で、ようやく2位になり、部員は喜んだが、監督は満足していなかった。西先輩は、常に、弱い相手であっても、全力で試合するのが相手に対するスポーツマンの礼儀であるといっていたことを思い出す。リーグ戦の最中、優勝候補の日体大の合宿に、慶応との試合前夜、わざわざ出かけ、王者は手をぬいてくれるなと激励したその結果は予想を裏切り慶応が一点差で勝ったが、西先輩の得意満面な顔はその後みたことがないほど印象的であった。
　西先輩はじめ関係者の念願であったオリンピック参加が実現した現在、最大の心残りは戦後慶応が日本というタイトルを手にすることが出来なかったことではないだろうか。
　一生をハンドボールに捧げたといってよい西先輩の意志を今後も後輩に引きつぎ、ハンドボール界の発展にいくらかでも寄与できればと考えている。
（元日本協会常務理事）

大先輩としての「西氏」の情熱を絶やすことなく、万年青年・西敏郎氏の遺志を伝える責任がある。

（名工大OB）

韓国協会副会長
洪　淳泰

日本ハンドボール界きっての情熱家がなくなられたことを淋しく思います。

西さんの、若者に注ぐ愛情の深さには、韓国協会の役員も敬意を表しておりました。青年は隣国を理解する必要があるとして「日韓学生交流」には、なみなみならぬ意欲をもっておられ、私も大いに共鳴したものです。

私とは、学生時代にグランドで相まみえた仲であり、先年、訪韓された時、杯をかわすうちに、すっかり「青春」にもどり、大声で歌を唄いあい、気がついたら二人とも上半身はだかということがありました。

それも今はなつかしくも、悲しい想い出になってしまいました。

西さんの志をついで、これからも両国の学生界が太いきずなで結ばれることを期待します。

（談。日体OB。文責・編集委）

関東学連理事長
福地　賢介

「勝負には勝たねば意味がない」として、勝利へあくなき執着を見せ、ほとばしるような情熱と斗志を持って、日本のハンドボール活動に、また、学連の活動に当たられていた西会長と、学連理事としての私との最初の出会いは、昭和四四年三月であった。

仄聞する処では、この時、既に病を得ていたとのことであった。

昭和四八年四月より、関東学連の理事長として、直接運営に携わることとなり、更に接する機会も多くなったが、この当時から病状も可成り悪化され、視力減退も手伝い御不自由の身となられた。

しかし、その情熱は衰えず、時あるごとに、学連のあり方について、色々の御言葉を載いた。

「日本のハンドボール界発展のために、学連は純粋な気持で努力しなければならない」と、当り前のようで有りながら、大事な意味合を持った言葉を常々口にされ、御自身ひたむきな情熱を傾けておくれた。

今日までの私の学連活動の背景には、その言葉、その姿があったといっても過言ではない。

その立場から、学連は常に最強であれとされていたが、近年、学生界の不振打開には、如何にしたかと御苦心されていた。

オリンピック参加が刺激となり学連傘下の各選手の励みとなってレベルアップを招き、会長の夢であった全日本総合を学生陣に奪回することに繋れば と思っている。

四九年からは、開会式も、リーグも御出席出来ないほどとなられ学連関係者一同の、一日も早く回復され、学生の前にもう一度との願いも空しく、再び御目に掛かれることがなくなってしまった。

西会長の御厚誼と、御指導を受けたままで、何等お報いする力も機会もないまま、御見送り申し上げてしまったのが、残念でならない。

（早大OB）

日本協会監事
宮崎　慎六

稀れにみる闘志で不治の病と戦かっておられた西さんですので、奇跡にも似た回復を信じたい気持でいた私に、突然六月二十九日夕刻関東学連の福地理事長から西さんが二十八日他界されたとの知らせがありました。

私と西さんは昭和十四年私が早稲田でハンドボールを始めた最初からのお付合いです。最初の頃は、センターハーフをやった私は、慶応のセンターフォワードの西さんのマーク役で、学生時代から闘志をむき出しにした、時には喧嘩腰にさえみえた西さんは、気の小さい私には最初の頃は恐しささえ感じた対手でした。その後フォワードに転向した私は、翌年西さんがキャプテンとして率いる慶応チームと滞同で朝鮮に遠征し各地で試合を行った思い出は、私の西さんに対する一番強い印象になっております。

戦後はお互いに早慶の監督として又合いまみえる仲となり共にハンドボールを語り、時には憤慨して夜遅くまで討論してまいりました。自分からハンドボール馬鹿を認じている私でも、西さんのハンドボールに対する情熱には到底比べものになりません。闘病のベットの中でも常にハンドボールへの熱情を燃やし続けた西さんに「ミスター・ハンドボール」の敬称を私個人として捧げたい気持です。

よきライバルである早稲田の球友を代表して西さんのご冥福をお祈りします。（早大OB、稲門ハンドボール・クラブ会長）

全日本男子主将
木野　実

リーグ戦などの開閉会式で挨拶されるとき、その内容が形式的なものではなく、鋭い批判に終始していたことが印象に残っています

ことに、優勝チームに対して、「幸福に恵れて勝ったが、技術的には不充分だ」と極めつけられるのが常で、〝勝運〟に比較的恵れた僕などは、聞き終ったあと、なるほどなあと思うことも多く、気持ちを引きしめさせられたものです。心からご冥福をお祈りします

（談。立大OB。文責・編集委）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

乗鞍にハンドボール少年団集う

岐阜協会の新企画として注目された「第1回全国ハンドボール少年団乗鞍山交歓会」は8月4、5、6の3日間、乗鞍高原の国立青年の家で行われた。ハンドボールを通じ楽しい夏休みのひとときをすごす少年少女の元気な声がはずみ好成果をあげたが、このキャンプに20名を送りこんだ笠松ハンドボール少年団（岐阜）から二通の参加者感想文が寄せられたのでご紹介しよう。

笠松ハンドボール少年団は、全国ハンドボール少年団大会に参加し、乗鞍青年の家で四日から、二泊三日で研修することになった。私達のチームの他に、愛知県小学生ハンドボール少年団、岐阜市七郷ハンドボール少年団、下之保ハンドボール少年団、豊橋ハンドボール少年団の四チームが参加していた。

交歓会、キャンドルサービス、さいごの日には交流試合をした。

青年の家では、知らない人でもろうかで合うと「おはよう」「こんにちは」「こんばんわ」と気がるにあいさつができたこと、お世話をしてくださった、おにいさんおねえさんや他のチームの子と仲よくなれたことがとてもうれしかった。

試合では、二回とも、まけてしまったことがとても残念だったがこの三日間、いろいろなことを学ぶことができ、よい経験ができたと思う。（葛谷知子・笠松ハンドボール少年団）

◇

わたしは、この大会に参加したことを、とてもよかったと思います。

高山へ行ったのは、初めてだし青年の家での交歓会は、楽しく、他のチームの人と、友達になることができました。

そして、初めて他のチームとの試合ができました。

試合をした名古屋のチームは、長い間やっている人が多いせいかさすがに強く、シュートも強く決まっていました。

わたしたちも早く強いチームになりたいと思いました。

試合を終えたとき、わたしは、ハンドボールに対する意欲が強くなったような気がして、ハンドボールを初めてよかったと思いました。こんな気持ちになったのは、初めてです。そして、冬にも、こんな大会があればいいと思いました。この大会は、わたしにとってよい思い出になりました。

（野田みゆき・笠松ハンドボール少年団）

熱こもる各地の中学生大会

7月下旬から8月上旬にかけて、中学界のブロック大会が各地で行われた。

新しい球史をつづりつつある全国中学生（大阪）大会へつながるとあり、参加チームも増えて熱がこもり、レベルの向上を印象づけている。

これまでに本誌あてに送られた記録をお伝えしておこう

◇第5回全道中学生（8月・札幌南高）＝男子のみ

▽決勝リーグ

釧路北 33（15−3、18−5）8 札幌信濃
函館旭 29（13−2、16−2）4 札幌信濃
釧路北 11（6−3、5−4）7 函館旭

【順位】①釧路北＝3年連続優勝②函館旭③札幌信濃

◇第4回中国中学校選手権（7月 広島県立体育館）

▽男子決勝リーグ

下松（山口）17（6−0、11−6）6 操南（岡山）
下松 16（9−6、7−9）15 廿日市（広島）
廿日市 19（11−3、8−5）8 操南

【順位】①下松②廿日市③操南

▽女子決勝リーグ

住吉（山口）29（11−0、18−2）2 神辺（広島）
操南（岡山）16（7−3、9−3）6 神辺
住吉 21（7−0、14−1）1 操南

【順位】①住吉②操南③神辺

◇第5回九州中学生競技会（7月 別府青山中）

▽男子1回戦

国分（鹿児島）10（4−3、6−6）9 戸町（長崎）
成章HC（佐賀）13（4−6、9−4）10 足立（福岡）
隼人（鹿児島）12（5−6、7−5）11 上野（宮崎）
松橋（熊本）13（8−2、5−6）8 小林（宮崎）
深堀（長崎）11（4−6、7−4）10 安岡（沖縄）

▽同準々決勝

深堀 30（17−0、13−2）2 成章HC
国分 14（8−7、6−6）13 仲西（沖縄）
マリスト（熊本）29（13−4、16−2）6 隼人
松橋 21（9−1、12−2）3 城南

▽同準決勝

マリスト 21（7−7、14−3）10 深堀
松橋 13（6−3、7−5）8 国分

▽同決勝

マリスト 13（7−6、4−5：1−0、0−1：1−1、0−0）13 松橋 引き分け

（注）両校優勝

▽女子1回戦

鶴城ク（熊本）11（3−1、8−0）1 清水スポーツ（長崎）
氷川スポーツ（熊本）16（7−1、9−2）3 大野スポーツ（長崎）
川辺南（鹿児島）19（10−0、9−3）3 足立（長崎）
神森（沖縄）24（14−2、10−1）3 油津（宮崎）

▽同準々決勝

神森 12（5−2、7−2）4 青山（大分）
仲西（沖縄）14（8−2、6−8）10 川辺南
氷川スポーツ 17（7−5、10−3）8 内の浦
鶴城ク 22（13−2、9−2）4 神埼（佐賀）

▽同準決勝

氷川スポーツ 11（4−5、7−3）8 神森
鶴城ク 17（6−3、11−3）6 仲西

▽同決勝

鶴城ク 18（10−6、8−4）10 氷川スポーツ

各地の記録

湧永薬品、初参加飾る

第21回（女子第4回）中国一般選手権は、7月10、11日の2日間島根の松江農林高、松江工高両体育館に男子16、女子5チームが参加トーナメントで行われた。

男子は、今夏から広島協会登録となった実業団の強豪・湧永薬品の初登場に注目が集ったが、全日本級選手を揃えてさすがに強いところを示し、各試合とも前半で大勢を決める圧倒ぶり、文句ない初優勝を飾った。

このほかでは前年優勝の徳山ク（山口）が三菱レ大竹（広島）を破るなどして2位につけたのが目立った。

女子は、予想どおり徳山ク（山口）×広島一女商OGの決勝となり徳山が後半一気に勝負を決めて2連勝を飾った。

▽男子1回戦
山口教員団(山口) 26（12—2、14—4）6 倉敷工OB(岡山)
海上自衛隊呉(広島) 19（10—4、9—5）9 朝酌ク(島根)
徳山ク(山口) 25（14—7、11—3）10 岡山ク(岡山)
三菱レ大竹(広島) 37（20—5、17—4）9 関金ク(鳥取)
三井石油化学(山口) 31（18—6、13—4）10 松江ク(島根)
日新製鋼呉(広島) 29（17—3、12—2）5 倉敷商OB(岡山)
武田薬品光(山口) 18（10—9、8—7）16 岡山教員(岡山)
湧永薬品(広島) 24（11—2、13—4）6 境港市HC(鳥取)

▽同準々決勝
山口教員団 15（8—5、7—6）11 海上自衛隊呉
徳山ク 19（10—7、9—5）12 三菱レイヨン大竹
日新製鋼呉 21（10—6、11—3）9 三井石油化学
涌永薬品 24（13—6、11—2）8 武田薬品光

▽同準決勝
徳山ク 24（13—8、11—8）16 山口教員団
湧永薬品 27（12—10、15—3）13 日新製鋼呉

▽同決勝
湧永薬品 32（15—10、17—5）15 徳山ク

▽女子1回戦（1試合）
第一女商OG(広島) 11（6—2、5—2）4 GL高雄(島根)

▽同準決勝
徳山ク(山口) 19（9—4、10—3）7 サン電子(広島)
第一女商OG 7（3—2、4—4）6 山陽女ク(広島)

▽同決勝
徳山ク 14（9—3、5—3）6 第一女商OG

稲球会、三春台ク制す
女子は武蔵野クが初

第6回関東クラブ選手権は7月17、18の両日、栃木の足利工、足利高体育館に男女各8チームを集めて行われた。

男子は実績を誇る稲球会(東京)と三春台ク(神奈川)が前評判どおりのチーム力をみせて決勝へ進み稲球会が、三春台クの追撃を振り切って初優勝、三春台クの5連勝にストップをかけた。

女子は、接戦模様から新進・武蔵野ク（東京）が試合運びの巧さを示し初優勝した。

なお、1回戦敗者による2部は男子がAOK栃木、女子が全神奈川の1位と決まった。

▽男子準々決勝（＝1回戦）
塩山ク(山梨) 12（4—7、8—3）10 麻生ク(茨城)
稲球会(東京) 13（6—5、7—4）9 AOK栃木(栃木)
三春台ク(神奈川) 17（7—9、10—4）13 浦和市高OB（埼玉）
富岡ク(群馬) 20（11—11、9—7）18 佐原ク(千葉)

▽同準決勝
稲球会 27（10—3、17—6）9 塩山ク
三春台ク 18（7—7、11—4）11 富岡ク

▽同決勝
稲球会 12（5—5、7—5）10 三春台ク

▽女子準決勝（＝1回戦）
塩山ク(山梨) 9（1—1、2—1…3—2、3—4）8 全神奈川
深谷一OG(埼玉) 12（8—2、4—4）6 前橋ピジョンズ(群馬)
武蔵野ク(東京) 11（3—3、8—1）4 水郷ク(千葉)
麻生高OG(茨城)×足利女OG(栃木)は13—6で麻生が勝ったが規定違反があり失格

▽同準決勝
深谷一OG 9（6—0、3—7）7 塩山ク
武蔵野ク 不戦勝

▽同決勝
武蔵野ク 20（13—3、7—5）8 深谷一OG

▽男子2部1回戦
AOK栃木26—12麻生ク
佐原ク 28—18浦和市高OB

▽同決勝
AOK栃木28—15 佐原ク

▽女子2部1回戦
全神奈川 13—11前橋ピジョンズ
足利女OG10（延）9 水郷ク

▽同決勝
全神奈川 10—6 足利女OG

一般男子は守山ク

▼滋賀県民体育大会（8月・野洲高校）

▽一般男子1回戦（2試合）
日鉄カーテンオール 棄権 自衛隊大津
彦根ク 15—6ダイキンKK

▽同準決勝
守山ク15—6日鉄カーテンオール
高島ク 15—6 彦根ク

▽同3位決定戦
彦根ク13—6日鉄カーテンオール

▽同決勝
守山ク 13（8—3、5—2）5 高島ク

▽同女子決勝リーグ順位①犬上郡②守山市③彦根市

▽高校男子準々決勝
安曇川 20—11 近江
彦根東 9—8 能登川
彦根西 13—5 彦根工
八幡工 11—8 米原

▽同準決勝
八幡工 25—6 安曇川
彦根西 21—4 彦根東

▽同決勝
八幡工 20（9—6、11—1）7 彦根西

▽同女子準決勝
大津商 8—4 愛知
守山女 12—4 彦根南

▽同決勝
大津商 5（2—1、3—2）3 守山女

県商工が優勝遂ぐ

▼第14回神奈川県高校総体ハンドボール競技（6月・横浜東高）

▽男子決勝リーグ
県商工 12—8 横浜南

慶応 19—6 法政二
県商工 13—9 慶応
横浜南 10(分)10 法政二
横浜南 14—9 慶応
県商工 10(分)10 法政二
【順位】①県商工2勝1分②横浜南1勝1分1敗③慶応1勝2敗④法政二2分1敗

▽女子決勝リーグ
京浜横浜 12—3 平沼
明倫 12—3 市川崎
京浜横浜 9—3 市川崎
明倫 19—1 平沼
市川崎 8—4 平沼
明倫 6—4 京浜横浜
【順位】①明倫3戦全勝②京浜女子横浜2勝1敗③市川崎1勝2敗④平沼3敗

仙台大OB激戦ぬける

▼第2回宮城県社会人リーグ（7月・仙台大体育館ほか）
仙台商OB 15—12 東北学院OB
仙台大OB 21—15 育英高OB
古川工OB 16—14 仙高OB
仙台大OB 20—17 仙高OB
仙台商OB 13—12 育英高OB
東北学院大OB 30—15 古川工OB
育英高OB 25—20 古川工OB
東北学院大OB 19—12 仙高OB
仙台大OB 21—12 仙台商OB
仙台大OB 15—13 東北学院大OB
古川工OB 25—11 仙台商OB
育英高OB 20—11 仙高OB
仙台商OB 26—13 仙高OB
古川工OB 16—14 仙台大OB
育英高OB 16—13 東北学院大OB
【順位】①仙台大OB②育英高OB③古川工OB④仙台商OB⑤東北学院大OB⑥仙台高OB

市原と昭和学院勝つ

▼千葉県高校総体ハンドボール競技（6月・市原臨海体育館）
▽男子1回戦（3試合）
市原 25—9 我孫子
木更津 19—8 鶴舞
八千代 32—10 雪解沢
▽同準決勝
市原 17—6 佐原
八千代 17—10 木更津
▽同決勝
市原 15（7—7、8—2）9 八千代
▽女子準決勝
佐原女子 12—1 佐原
昭和学院 11—5 東邦
▽同決勝
昭和学院 8（5—1、3—2）3 佐原女子

三井石油化学、海自下総降す

▼千葉県実業団夏季定期戦（7月・市原市）
▽1部
三井石油化学 24—17 出光千葉
海自下総 23—8 海自木更津補給所
丸善石油 21(分)21 出光千葉
三井石油化学 31—10 海自木更津
海自下総 27—13 丸善石油
出光千葉 18—13 海自木更津補給所
三井石油化学 22—16 丸善石油
海自下総 29—10 出光千葉
丸善石油 22—8 海自木更津補給所
三井石油化学 18—17 海自下総
【順位】①三井石油化学千葉3戦全勝②海自下総3敗1敗③丸善石油千葉・出光千葉1勝1分2敗⑤海自木更津航空補給所4敗
【2部順位】①東京電力千葉4戦全勝②陸自下志津3勝1敗③海自館山航空基地2勝2敗④陸自第一空挺団1勝3敗⑤陸自第一ヘリコプター団4敗（棄権）
【3部順位】①日産石油化学4戦全勝②ヤトロン3勝1敗③東洋サッシ工業2勝2敗④住友化学工業・陸自松戸

クラブは佐原が優勝

▼第5回千葉県クラブ選手権（6月・清水高）
▽準決勝
木更津ク 16—13 小金ク
佐原ク 18—14 清水ク
▽3位決定戦
清水ク 21—17 小金ク
▽決勝
佐原ク 23（13—7、10—12）19 木更津ク

笠間クが首位に

▼茨城県民体育大会ハンドボール一般競技（7月・石岡一高）
▽男子準々決勝
茨高OB 19—14 自衛隊勝田
土浦三高ク 21—7 千代田ク
笠間ク 22—10 竜ケ崎ク
自衛隊土浦 棄権 茨城高専
▽同準決勝
茨高OB 15—13 土浦三高ク
笠間ク 25—6 自衛隊土浦
▽同決勝
笠間ク 20（12—4、8—9）13 茨高OB

二上工、高岡商おさえる

▼富山県高校大会（6月・二上工高）
▽男子準々決勝
二上工 14—6 八尾
小杉 14—7 富山東
富山商 13—2 高岡南
高岡商 19—17 大沢野
▽同準決勝
高岡商 23—7 富山商
二上工 22—5 小杉
▽同決勝
二上工 19（7—5、12—7）12 高岡商
▽女子1回戦（3試合）
高岡商 7—0 女短
富山北 12—3 清光
富山女 20—0 高岡
▽同準決勝
小杉 9—3 高岡商
富山北 6(分)6 富山女
PTコンテストで富山北の勝ち
▽同決勝
小杉 7（3—2、4—0）2 富山北

ハンドボール・タウン

★第6回土曜の集いは19日。

日本協会の「土曜の集い」第6回は9月19日午後5時から7時まで、いつものように東京・青少年総合センター（電・03—四六七—七二〇一）です。参加費百円。

夏休み中の8月も約50名のかたが元気に参加。初秋9月、あなたも是非!!

編集後記

□……モントリオールで、全日本の各選手が「日本におけるハンドボールの位置〟を自分たちのプレーで少しでも引き上げよう」という気持ちで試合に臨んでいることがよく判りました。善戦の因は、このけなげな態度にあったのでは…。

□……この先の壁を破るのは、当然のことながら、選手の責任ではなく、球界全体の姿勢にかかります。

男女オリンピック参加という宿願を果たした田村—荒川体制が、ここへ来て、一つの点に立たされました。

総てを新しく——という構想が両氏の胸中にあるのも事実のようです。

□……その機に「日本リーグ」が発足します。今後の球界の命運を握るともいえる事業です。多くのかたがたの支持を希望するとともに成果を注目したいと思います。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一四五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和[illegible]一年八月二十五日印刷 昭和五一年九月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷[illegible]一一一一
電話 大代[illegible])三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価二百八十円
（年間購読料二千七百円）